

Q0001 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「機能要件」を確認する誤答分析で、学習者が候補「応答時間や可用性だけを定める要件」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．主に非機能要件である。
- イ．機能要件は、入力に対して何を処理し、どのような結果を提供するかなど、システムが実現すべき機能を表す。
- ウ．システム要件ではない。
- エ．調達条件であり機能要件とは異なる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「応答時間や可用性だけを定める要件」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「システムが利用者や他システムに対して提供すべき機能・振る舞いを定める要件」に対応するため、誤答候補「応答時間や可用性だけを定める要件」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「開発者の人事評価方法を定める要件」に対応するため、誤答候補「応答時間や可用性だけを定める要件」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「サーバの購入価格だけを記録する要件」に対応するため、誤答候補「応答時間や可用性だけを定める要件」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「応答時間や可用性だけを定める要件」について、誤りの内容を説明できることが重要である。主に非機能要件である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0002 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「非機能要件」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「非機能要件」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．提供機能の振る舞いを定める要件である。
- イ．非機能要件は、機能そのものではなく、性能、信頼性、セキュリティ、運用性など品質特性や制約を定める。
- ウ．要件の一部にはなり得るが総称ではない。
- エ．実装ルールであり非機能要件そのものとは異なる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「機能要件」に対応するため、正答候補「非機能要件」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「非機能要件」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「データ移行結果だけ」に対応するため、正答候補「非機能要件」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「ソースコード規約」に対応するため、正答候補「非機能要件」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「非機能要件」を選ぶ根拠は次のとおりである。非機能要件は、機能そのものではなく、性能、信頼性、セキュリティ、運用性など品質特性や制約を定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0003 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「システム・ソフトウェア要件定義」の「ステークホルダ」について、候補「必要な要求や制約を漏れなく把握し、相互に矛盾する要求を調整するため。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．必要な関係者を除外すると要求漏れにつながる。
- イ．利用者・業務側との合意が必要である。
- ウ．利用者、運用者、経営者、外部機関など関係者を把握しないと、重要要求の漏れや合意不足が生じやすい。
- エ．早期明確化と合意が重要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「関係者を減らすほど要件品質が必ず上がるため。」に対応するため、正答候補「必要な要求や制約を漏れなく把握し、相互に矛盾する要求を調整するため。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「開発者だけで全要求を推測するため。」に対応するため、正答候補「必要な要求や制約を漏れなく把握し、相互に矛盾する要求を調整するため。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「必要な要求や制約を漏れなく把握し、相互に矛盾する要求を調整するため。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「要件を後工程まで意図的に曖昧にするため。」に対応するため、正答候補「必要な要求や制約を漏れなく把握し、相互に矛盾する要求を調整するため。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。利用者、運用者、経営者、外部機関など関係者を把握しないと、重要要求の漏れや合意不足が生じやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0004 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」の「要件の検証可能性」を復習している学習者が、候補「画面はできるだけ良い感じにする。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．終了条件が不明確である。
- イ．利用者視点と客観性を欠く。
- ウ．測定可能な条件を付けることで、要件を客観的に検証できる。
- エ．評価基準が曖昧で検証できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「利用者が満足するまで改善する。」に対応するため、誤答候補「画面はできるだけ良い感じにする。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「開発者が使いやすいと思えば合格とする。」に対応するため、誤答候補「画面はできるだけ良い感じにする。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「代表利用者によるユーザビリティテストで、主要操作の完了率が95%以上とする。」に対応するため、誤答候補「画面はできるだけ良い感じにする。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「画面はできるだけ良い感じにする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「画面はできるだけ良い感じにする。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。評価基準が曖昧で検証できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0005 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「トレーサビリティ」を確認する誤答分析で、学習者が候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．問われている関係や方向を逆に捉えた内容である。
- イ．要件の出所と後続成果物の対応を追跡できれば、変更影響分析や実装漏れ確認に役立つ。
- ウ．機密性保護とは別概念である。
- エ．トレーサビリティはテストを代替しない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「要件と設計・実装・テスト・変更の対応関係を追跡できるようにするため。」に対応するため、誤答候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「要件文書を暗号化することだけが目的である。」に対応するため、誤答候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「テストを不要にするため。」に対応するため、誤答候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「要件番号を毎回変更して追跡を困難にするため。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。問われている関係や方向を逆に捉えた内容である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0006 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「要求の競合」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．合意不足になる。
- イ．要件間の競合は一方を無条件に捨てるのではなく、目的・制約・リスクを明確化して合意形成する。
- ウ．合理的な優先付けにならない。
- エ．実装・受入時に問題になる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「両方を無視して開発者が独断で決める。」に対応するため、正答候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「先に発言した部門の要求を必ず採用する。」に対応するため、正答候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「矛盾したまま両方を要件として確定する。」に対応するため、正答候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「利害関係者とリスク・利便性・業務影響を整理し、優先度や適用条件を調整して合意する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。要件間の競合は一方を無条件に捨てるのではなく、目的・制約・リスクを明確化して合意形成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0007

5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」の「ユースケース」について、候補「ユースケース」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．工程日程を表す。
- イ．品質管理の統計的手法である。
- ウ．ユースケースはアクタとシステムの相互作用を目的単位で記述し、機能要件整理に利用される。
- エ．主にデータ構造を表す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この説明は別候補「ガントチャート」に対応するため、正答候補「ユースケース」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「管理図」に対応するため、正答候補「ユースケース」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「ユースケース」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「ER図」に対応するため、正答候補「ユースケース」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。ユースケースはアクタとシステムの相互作用を目的単位で記述し、機能要件整理に利用される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0008

5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」の「要件優先度」を復習している学習者が、候補「要件名の五十音順で決める。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．価値や必須性を無視している。
- イ．資源配分が不明確になる。
- ウ．優先度は価値や制約を明示した上で透明に決めることが重要である。
- エ．合理的根拠がない。

答え・解説

正答：エ

- ア：この説明は別候補「実装が簡単な要件だけを必ず最優先にする。」に対応するため、誤答候補「要件名の五十音順で決める。」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「優先度を決めず全て同時に着手する。」に対応するため、誤答候補「要件名の五十音順で決める。」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「事業価値、リスク、依存関係、法的必須性、実現コストなどを基準に関係者と合意して優先度を決める。」に対応するため、誤答候補「要件名の五十音順で決める。」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「要件名の五十音順で決める。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「要件名の五十音順で決める。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。合理的根拠がない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0009 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：応用

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「要件変更影響」を確認する誤答分析で、学習者が候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．成果物間の不整合が生じる。
- イ．後工程の要件変更ほど影響範囲が広いため、変更管理とトレーサビリティに基づく影響分析が重要である。
- ウ．品質や整合性を損なう。
- エ．必須要件なら対応が必要である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「要件変更を正式に記録し、設計・実装・テスト・スケジュール・コストへの影響を分析して承認後に反映する。」に対応するため、誤答候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「法令要件なので影響分析なしで本番へ直接修正する。」に対応するため、誤答候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「テスト直前なので法令要件でも永久に無視する。」に対応するため、誤答候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「要件文書だけ変更し設計・テストは更新しない。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。成果物間の不整合が生じる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0010 5-1 要件定義・設計 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：応用

「システム・ソフトウェア要件定義」のうち「受入基準」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．客観的検証ができない。
- イ．性能要件は測定条件を明確にして受入テストで検証できる形にする必要がある。
- ウ．本番条件を再現していない。
- エ．要件未検証となる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「開発者の感覚で速ければ合格とする。」に対応するため、正答候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「小規模な空DBで1回だけ実行して全条件を満たしたとする。」に対応するため、正答候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「性能要件を受入時には確認しない。」に対応するため、正答候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「本番相当データ量・構成・負荷条件を定義し、その条件で30分以内かを測定する受入基準を作る。」を選ぶ根拠は次のとおりである。性能要件は測定条件を明確にして受入テストで検証できる形にする必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0011 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：基礎

「アーキテクチャ・外部設計」の「アーキテクチャ」について、候補「システムを主要な構成要素へ分割し、要素間の責務・インタフェース・配置などの基本構造を定める。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．詳細実装レベルの事項である。
- イ．設計目的ではない。
- ウ．アーキテクチャは詳細実装より上位の構造を決め、品質特性や変更容易性に大きく影響する。
- エ．システム設計とは無関係である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「全ての変数名を最終決定する。」に対応するため、正答候補「システムを主要な構成要素へ分割し、要素間の責務・インタフェース・配置などの基本構造を定める。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「テスト結果だけを記録する。」に対応するため、正答候補「システムを主要な構成要素へ分割し、要素間の責務・インタフェース・配置などの基本構造を定める。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「システムを主要な構成要素へ分割し、要素間の責務・インタフェース・配置などの基本構造を定める。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「利用者の給与体系を定める。」に対応するため、正答候補「システムを主要な構成要素へ分割し、要素間の責務・インタフェース・配置などの基本構造を定める。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。アーキテクチャは詳細実装より上位の構造を決め、品質特性や変更容易性に大きく影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0012 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：基礎

「アーキテクチャ・外部設計」の「外部設計」を復習している学習者が、候補「監査人の人事配置」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．内部設計・実装寄りである。
- イ．ハードウェア内部実装である。
- ウ．外部設計は利用者・外部システムとの境界で見える仕様を具体化する。
- エ．設計対象ではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「関数内部のローカル変数配置」に対応するため、誤答候補「監査人の人事配置」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「CPUのトランジスタ配置」に対応するため、誤答候補「監査人の人事配置」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「画面・帳票・外部インタフェースなど、利用者や外部システムから見える仕様」に対応するため、誤答候補「監査人の人事配置」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「監査人の人事配置」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「監査人の人事配置」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。設計対象ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0013 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：基礎

「アーキテクチャ・外部設計」のうち「レイヤ化」を確認する誤答分析で、学習者が候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．責務分離と逆である。
- イ．責務を分けることで保守性・テスト容易性・再利用性を高めやすい。
- ウ．層間には明確なインターフェースが必要である。
- エ．設計だけで無障害は保証できない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「関心事を分離し、変更影響を局所化しやすくする。」に対応するため、誤答候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「層間インターフェースが不要になる。」に対応するため、誤答候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「障害が絶対に起きなくなる。」に対応するため、誤答候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「全処理を一つの巨大モジュールへ集中できる。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。責務分離と逆である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0014 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：標準

「アーキテクチャ・外部設計」のうち「可用性設計」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．可用性に寄与しない。
- イ．単一障害点を減らし、代替系へ切り替えられる設計が可用性向上に有効である。
- ウ．復旧・調査能力が低下する。
- エ．可用性とは無関係である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「サーバ名を長くする。」に対応するため、正答候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「全ログを削除する。」に対応するため、正答候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「UIの色だけを変更する。」に対応するため、正答候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「サーバを冗長化し、障害検知とフェイルオーバー機構を設ける。」を選ぶ根拠は次のとおりである。単一障害点を減らし、代替系へ切り替えられる設計が可用性向上に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0015 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：標準

「アーキテクチャ・外部設計」の「疎結合」について、候補「明確で安定したインタフェースを定め、内部実装への依存を減らして疎結合にする。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．密結合になり変更影響が大きい。
- イ．独立性を損なう。
- ウ．サービス間依存を公開契約へ限定すると、内部変更が他要素へ波及しにくい。
- エ．連携品質が低下する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「他サービスの内部DB表へ直接依存する。」に対応するため、正答候補「明確で安定したインタフェースを定め、内部実装への依存を減らして疎結合にする。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「全サービスで同一の内部変数を共有する。」に対応するため、正答候補「明確で安定したインタフェースを定め、内部実装への依存を減らして疎結合にする。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「明確で安定したインタフェースを定め、内部実装への依存を減らして疎結合にする。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「インタフェース仕様を定めない。」に対応するため、正答候補「明確で安定したインタフェースを定め、内部実装への依存を減らして疎結合にする。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。サービス間依存を公開契約へ限定すると、内部変更が他要素へ波及しにくい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0016 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：標準

「アーキテクチャ・外部設計」の「API設計」を復習している学習者が、候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．利用・変更管理が困難になる。
- イ．公開インタフェースの目的に反する。
- ウ．公開APIは複数利用者が依存するため、変更管理と後方互換性への配慮が重要である。
- エ．既存連携を破壊する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「API仕様を文書化しない。」に対応するため、誤答候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「全利用者に内部ソースコードへの直接アクセスを必須にする。」に対応するため、誤答候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「公開仕様を明確化し、破壊的変更はバージョン管理などで既存利用者への影響を制御する。」に対応するため、誤答候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「利用者へ知らせず項目を毎日削除する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。既存連携を破壊する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0017 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：標準

「アーキテクチャ・外部設計」のうち「キャッシュ設計」を確認する誤答分析で、学習者が候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．整合性問題が生じる。
- イ．キャッシュは読取り負荷軽減に有効だが、古い値を返さないための更新・失効戦略が必要である。
- ウ．性能改善と逆である。
- エ．セキュリティ・整合性上不適切である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「キャッシュを導入し、更新時の無効化・整合性ルールも合わせて設計する。」に対応するため、誤答候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「全要求で必ずDB全件走査する。」に対応するため、誤答候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「更新頻度に関係なく全データを利用者端末へ無制限公開する。」に対応するため、誤答候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「キャッシュ値は永久に更新しない。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。整合性問題が生じる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0018 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：標準

「アーキテクチャ・外部設計」のうち「外部IF障害」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．資源枯渇につながる。
- イ．外部サービス依存では、障害伝播を防ぎ復旧後に処理できる設計が有効である。
- ウ．データ損失につながる。
- エ．契約境界を逸脱する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「外部API応答を無期限に待ち続ける。」に対応するため、正答候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「失敗時は記録せず注文を捨てる。」に対応するため、正答候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「外部APIの内部DBを無断更新する。」に対応するため、正答候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「非同期キューや再試行、タイムアウト、代替処理などを用いて外部依存障害を隔離する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。外部サービス依存では、障害伝播を防ぎ復旧後に処理できる設計が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0019 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：応用

「アーキテクチャ・外部設計」の「品質特性トレードオフ」について、候補「可用性・整合性・性能などの品質要求と事業優先度を整理し、測定・評価して方式を選択する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．要件全体を満たさない。
- イ．事業影響を無視している。
- ウ．アーキテクチャでは複数の品質特性が競合するため、要件に基づくトレードオフ評価が必要である。

エ．根拠が不足する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「可用性だけ高ければ他品質は無視する。」に対応するため、正答候補「可用性・整合性・性能などの品質要求と事業優先度を整理し、測定・評価して方式を選択する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「性能だけを優先しデータ損失リスクを評価しない。」に対応するため、正答候補「可用性・整合性・性能などの品質要求と事業優先度を整理し、測定・評価して方式を選択する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「可用性・整合性・性能などの品質要求と事業優先度を整理し、測定・評価して方式を選択する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「測定せず設計者の好みだけで決める。」に対応するため、正答候補「可用性・整合性・性能などの品質要求と事業優先度を整理し、測定・評価して方式を選択する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。アーキテクチャでは複数の品質特性が競合するため、要件に基づくトレードオフ評価が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0020 5-1 要件定義・設計 > アーキテクチャ・外部設計 | 難易度：応用

「アーキテクチャ・外部設計」の「段階移行設計」を復習している学習者が、候補「新旧データの対応を確認しない。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．重大なリスクがある。
- イ．移行失敗リスクが高い。
- ウ．移行方式は技術構造だけでなく停止許容時間、データ整合性、切戻し可能性を考慮して選ぶ。
- エ．整合性を保証できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「切戻し方法を決めず本番データを即消去する。」に対応するため、誤答候補「新旧データの対応を確認しない。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「移行テストを行わず本番だけで初確認する。」に対応するため、誤答候補「新旧データの対応を確認しない。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「並行稼働や機能単位の段階移行を検討し、データ同期・切戻し・責任分界を事前に設計する。」に対応するため、誤答候補「新旧データの対応を確認しない。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「新旧データの対応を確認しない。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「新旧データの対応を確認しない。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。整合性を保証できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0021 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：基礎

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「高凝集低結合」を確認する誤答分析で、学習者が候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．変更影響が大きくなる。
- イ．高凝集・低結合は変更影響を局所化し、理解・テスト・再利用を容易にしやすい。
- ウ．凝集度が低くなりやすい。
- エ．結合度が高くなる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

イ：この説明は別候補「各モジュール内の責務の関連性を高くし、モジュール間の依存を少なくする。」に対応するため、誤答候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「一つのモジュールに全機能を集約する。」に対応するため、誤答候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「モジュール同士で内部データを無制限共有する。」に対応するため、誤答候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「インタフェースを設けず直接内部実装へ依存する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。変更影響が大きくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0022 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：基礎

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「クラス図」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「クラス図」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．時系列のメッセージ交換を表す。
- イ．クラス図はシステムの静的構造を表す代表的なUML図である。
- ウ．処理・業務フローを表す。
- エ．状態遷移を表す。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「シーケンス図」に対応するため、正答候補「クラス図」の根拠にはならない。

イ：この説明は正答候補「クラス図」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

ウ：この説明は別候補「アクティビティ図」に対応するため、正答候補「クラス図」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「状態機械図」に対応するため、正答候補「クラス図」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「クラス図」を選ぶ根拠は次のとおりである。クラス図はシステムの静的構造を表す代表的なUML図である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0023 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：基礎

「ソフトウェア設計・モデリング」の「シーケンス図」について、候補「シーケンス図」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．静的構造を表す。
- イ．実行環境への配置を表す。
- ウ．シーケンス図はライフライン間のメッセージを時間の流れに沿って表す。
- エ．データモデルを表す。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「クラス図」に対応するため、正答候補「シーケンス図」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「配置図」に対応するため、正答候補「シーケンス図」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「シーケンス図」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「ER図」に対応するため、正答候補「シーケンス図」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。シーケンス図はライフライン間のメッセージを時間の流れに沿って表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0024 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：標準

「ソフトウェア設計・モデリング」の「状態機械図」を復習している学習者が、候補「ガントチャート」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．状態遷移の時間的振る舞いを直接表しにくい。
- イ．データ関係の表現が中心である。
- ウ．状態とイベント・遷移を中心に振る舞いを表す場合、状態機械図が適している。
- エ．プロジェクト日程を表す。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「クラス図だけ」に対応するため、誤答候補「ガントチャート」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「ER図」に対応するため、誤答候補「ガントチャート」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「状態機械図」に対応するため、誤答候補「ガントチャート」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「ガントチャート」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「ガントチャート」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。プロジェクト日程を表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0025 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：標準

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「多態性」を確認する誤答分析で、学習者が候補「カプセル化だけ」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．内部実装を隠蔽する性質である。
- イ．共通インタフェースを介して異なる実装を同一の操作として扱える性質である。
- ウ．DB設計手法である。
- エ．同時実行制御である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「カプセル化だけ」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「ポリモーフィズム（多態性）」に対応するため、誤答候補「カプセル化だけ」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「正規化」に対応するため、誤答候補「カプセル化だけ」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「排他制御」に対応するため、誤答候補「カプセル化だけ」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「カプセル化だけ」について、誤りの内容を説明できることが重要である。内部実装を隠蔽する性質である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0026 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：標準

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「依存性逆転」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．この対応では特定要素への依存が強まり、柔軟性や可用性を損なうおそれがある。
- イ．具体実装への直接依存を減らすことで変更容易性とテスト容易性を高められる。
- ウ．結合度が高まる。
- エ．構造的な依存は解消しない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「業務ロジック内へSQLと接続情報をさらに埋め込む。」に対応するため、正答候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「全モジュールから同じグローバル接続変数を直接操作する。」に対応するため、正答候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「DB製品名を変数名に追加するだけにする。」に対応するため、正答候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「抽象インタフェースを定義し、業務ロジックは抽象へ依存し具体実装を差し替えられるようにする。」を選ぶ根拠は次のとおりである。具体実装への直接依存を減らすことで変更容易性とテスト容易性を高められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0027 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：標準

「ソフトウェア設計・モデリング」の「MVC」について、候補「MVC」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．ストレージ冗長化技術である。
- イ．分散トランザクション制御である。
- ウ．MVCはModel、View、Controllerへ責務を分け、UIと業務ロジックの分離に利用される。
- エ．DB索引構造である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「RAID」に対応するため、正答候補「MVC」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「2相コミット」に対応するため、正答候補「MVC」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「MVC」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「B-tree」に対応するため、正答候補「MVC」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。MVCはModel、View、Controllerへ責務を分け、UIと業務ロジックの分離に利用される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0028 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：標準

「ソフトウェア設計・モデリング」の「アクティビティ図」を復習している学習者が、候補「クラス図」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．ソフトウェア構成要素と依存を表す。
- イ．物理・実行ノードへの配置を表す。
- ウ．アクティビティ図は処理の流れ、分岐、並行などを表現する。
- エ．静的構造を表す。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「コンポーネント図」に対応するため、誤答候補「クラス図」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「配置図」に対応するため、誤答候補「クラス図」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「アクティビティ図」に対応するため、誤答候補「クラス図」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「クラス図」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「クラス図」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。静的構造を表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0029 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：応用

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「循環依存」を確認する誤答分析で、学習者が候補「全コードを一つの関数へ統合する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．保守性が低下する。
- イ．循環依存は変更波及や初期化順序の問題を招くため、責務・依存構造の見直しが必要である。
- ウ．問題を悪化させる。
- エ．品質問題を隠すだけである。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「全コードを一つの関数へ統合する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

イ：この説明は別候補「責務を再整理し、依存方向を単純化して抽象インタフェースやイベント等で循環を解消する。」に対応するため、誤答候補「全コードを一つの関数へ統合する。」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「循環をさらに増やして全モジュールを直接接続する。」に対応するため、誤答候補「全コードを一つの関数へ統合する。」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「テストをやめて依存問題を見えなくする。」に対応するため、誤答候補「全コードを一つの関数へ統合する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「全コードを一つの関数へ統合する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。保守性が低下する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0030 5-1 要件定義・設計＞ソフトウェア設計・モデリング | 難易度：応用

「ソフトウェア設計・モデリング」のうち「モデル整合性」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．成果物間で矛盾が生じる。
- イ．複数の設計モデルが同じ要件を異なる観点で表すため、変更時には相互整合性とトレーサビリティを確認する。
- ウ．実装・テストへ正しく反映できない。
- エ．正式成果物へ反映すべきである。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「クラス図だけ更新し他成果物は古いままにする。」に対応するため、正答候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」の根拠にはならない。

イ：この説明は正答候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

ウ：この説明は別候補「要件だけ変更し設計を一切更新しない。」に対応するため、正答候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「取消し条件を開発者の口頭説明だけにする。」に対応するため、正答候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「ユースケース、状態遷移、関連クラスの操作・制約、テスト条件など変更の影響を受けるモデルを整合して更新する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。複数の設計モデルが同じ要件を異なる観点で表すため、変更時には相互整合性とトレーサビリティを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0031 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：基礎

「実装・構築・統合」の「コーディング規約」について、候補「記述方法を統一し、可読性・保守性・レビュー効率を高める。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．規約は表現や品質基準を統一するもので、実装内容を一つに固定するものではない。
- イ．規約はテストを代替しない。
- ウ．命名、書式、例外処理などの共通ルールは、複数開発者による品質のばらつきを抑える。
- エ．今回問われている対象の目的には該当しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「全開発者の実装を完全に同一コードへする。」に対応するため、正答候補「記述方法を統一し、可読性・保守性・レビュー効率を高める。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「テストを不要にする。」に対応するため、正答候補「記述方法を統一し、可読性・保守性・レビュー効率を高める。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「記述方法を統一し、可読性・保守性・レビュー効率を高める。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「設計書を削除する。」に対応するため、正答候補「記述方法を統一し、可読性・保守性・レビュー効率を高める。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。命名、書式、例外処理などの共通ルールは、複数開発者による品質のばらつきを抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0032 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：基礎

「実装・構築・統合」の「ビルド」を復習している学習者が、候補「要件定義」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．生成済み成果物を環境へ配置・反映する処理である。
- イ．独立的に検証する活動である。
- ウ．コンパイル、リンク、依存解決、パッケージング等を含む成果物生成処理をビルドという。
- エ．必要な機能・品質を定める工程である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「デプロイ」に対応するため、誤答候補「要件定義」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「監査」に対応するため、誤答候補「要件定義」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「ビルド」に対応するため、誤答候補「要件定義」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「要件定義」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「要件定義」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。必要な機能・品質を定める工程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0033 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：基礎

「実装・構築・統合」のうち「統合」を確認する誤答分析で、学習者が候補「リスク受容」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスク対応の一種である。
- イ．統合では個別部品を組み合わせ、接続・データ受渡し・呼出順序などを確認する。
- ウ．要件定義前後の活動である。
- エ．ライフサイクル終盤の活動である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「リスク受容」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「統合」に対応するため、誤答候補「リスク受容」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「要求獲得」に対応するため、誤答候補「リスク受容」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「データ廃棄」に対応するため、誤答候補「リスク受容」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「リスク受容」について、誤りの内容を説明できることが重要である。リスク対応の一種である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0034 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：標準

「実装・構築・統合」のうち「ブランチ統合」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．競合を蓄積しやすい。
- イ．統合間隔を短くすると差分が小さくなり、競合や統合不具合を早期に発見しやすい。
- ウ．必要な変更を失う。
- エ．回帰不具合の早期検出が難しくなる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「統合をリリース直前まで禁止する。」に対応するため、正答候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「競合が起きたファイルを全て削除する。」に対応するため、正答候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「自動テストを停止する。」に対応するため、正答候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「小さな変更を高頻度で共有ブランチへ統合し、自動ビルド・テストで早期に問題を検出する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。統合間隔を短くすると差分が小さくなり、競合や統合不具合を早期に発見しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0035 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：標準

「実装・構築・統合」の「依存ライブラリ」について、候補「依存ライブラリのバージョンを構成情報として固定・管理し、再現可能なビルド環境を整える。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．再現性が低下する。
- イ．原因追跡が困難になる。
- ウ．依存関係の明示と固定は、ビルド再現性と障害切分けに重要である。
- エ．環境差異を増やす。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「各開発者が好きな最新版を毎回使う。」に対応するため、正答候補「依存ライブラリのバージョンを構成情報として固定・管理し、再現可能なビルド環境を整える。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「依存バージョンを記録しない。」に対応するため、正答候補「依存ライブラリのバージョンを構成情報として固定・管理し、再現可能なビルド環境を整える。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「依存ライブラリのバージョンを構成情報として固定・管理し、再現可能なビルド環境を整える。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「本番環境だけ手作業で異なる版を入れる。」に対応するため、正答候補「依存ライブラリのバージョンを構成情報として固定・管理し、再現可能なビルド環境を整える。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。依存関係の明示と固定は、ビルド再現性と障害切分けに重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0036 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：標準

「実装・構築・統合」の「例外処理」を復習している学習者が、候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．障害が隠れて原因追跡できない。
- イ．資源枯渇や障害拡大につながる。
- ウ．外部依存は失敗を前提に設計し、無限待ちや例外握りつぶしを避ける。
- エ．機密情報漏えいになる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「全例外を空のcatchで無視する。」に対応するため、誤答候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「失敗時は必ず無限再試行する。」に対応するため、誤答候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「失敗理由を適切に捕捉し、必要に応じタイムアウト・再試行・代替処理を行い、追跡可能なログを残す。」に対応するため、誤答候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「資格情報をエラーログへ平文出力する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。機密情報漏えいになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0037

5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：標準

「実装・構築・統合」のうち「環境差異」を確認する誤答分析で、学習者が候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．同じ条件で結果を再現できず、検証可能性に欠ける。
- イ．環境構成を自動化・版管理すると、設定ドリフトを減らせる。
- ウ．問題が悪化する。
- エ．事前検証能力が失われる。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は誤答候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「環境設定をコード化・構成管理し、同一手順で再現できるようにする。」に対応するため、誤答候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「環境差異を文書化せず増やす。」に対応するため、誤答候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「テスト環境を廃止する。」に対応するため、誤答候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「本番設定を担当者の記憶だけで管理する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。同じ条件で結果を再現できず、検証可能性に欠ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0038

5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：標準

「実装・構築・統合」のうち「統合順序」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「トップダウンテスト」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．下位から統合し、上位呼出しをドライバで代替する。
- イ．上位モジュールから統合し、未完成の下位をスタブで代替するのがトップダウン方式である。
- ウ．内部構造を意識せず仕様ベースでテストする分類である。
- エ．変更後の既存機能への影響を確認する。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は別候補「ボトムアップテスト」に対応するため、正答候補「トップダウンテスト」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「トップダウンテスト」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「ブラックボックステスト」に対応するため、正答候補「トップダウンテスト」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「回帰テスト」に対応するため、正答候補「トップダウンテスト」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「トップダウンテスト」を選ぶ根拠は次のとおりである。上位モジュールから統合し、未完成の下位をスタブで代替するのがトップダウン方式である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0039 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：応用

「実装・構築・統合」の「リリース成果物」について、候補「版管理されたソースからCI環境でビルドし、成果物へ版・ハッシュ・作成履歴を付けて保管する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．どの版か追跡できない。
- イ．同じ条件で結果を再現できず、検証可能性に欠ける。
- ウ．再現可能なビルドと成果物追跡性を確保すると、同一物の再配布や原因分析が容易になる。
- エ．変更管理を逸脱する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「成果物名を全てfinal.zipに固定し履歴を上書きする。」に対応するため、正答候補「版管理されたソースからCI環境でビルドし、成果物へ版・ハッシュ・作成履歴を付けて保管する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「ソースと成果物の対応を記録しない。」に対応するため、正答候補「版管理されたソースからCI環境でビルドし、成果物へ版・ハッシュ・作成履歴を付けて保管する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「版管理されたソースからCI環境でビルドし、成果物へ版・ハッシュ・作成履歴を付けて保管する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「本番サーバ上で直接ソースを編集する。」に対応するため、正答候補「版管理されたソースからCI環境でビルドし、成果物へ版・ハッシュ・作成履歴を付けて保管する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。再現可能なビルドと成果物追跡性を確保すると、同一物の再配布や原因分析が容易になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0040 5-2 実装・テスト・保守 > 実装・構築・統合 | 難易度：応用

「実装・構築・統合」の「統合障害」を復習している学習者が、候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．根本対策にならない。
- イ．再発防止が困難になる。
- ウ．単体テストでは見えない境界の契約違反は、仕様整合と統合テストで検出・防止する。
- エ．統合品質が保証できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「文字化けしたデータを手作業で毎回修正する。」に対応するため、誤答候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「インタフェース仕様を削除する。」に対応するため、誤答候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「インタフェース仕様の文字コード・形式を確認して統一し、境界条件を含む統合テストを追加する。」に対応するため、誤答候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「AとBの単体テストが通っているので問題を無視する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。統合品質が保証できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0041 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：基礎

「テスト・品質・レビュー」のうち「単体テスト」を確認する誤答分析で、学習者が候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．テスト単位が異なる。
- イ．単体テストは部品単位のロジックや境界条件を早期に検証する。
- ウ．受入テストの説明である。
- エ．テスト活動ではない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「個々の関数・クラス・モジュールなど比較的小さな単位が仕様どおり動作するか確認する。」に対応するため、誤答候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「利用者による最終受入だけを行う。」に対応するため、誤答候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「プロジェクト予算を承認する。」に対応するため、誤答候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「複数システムの契約条件だけを確認する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。テスト単位が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0042 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：基礎

「テスト・品質・レビュー」のうち「結合テスト」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「結合テスト」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．個々の部品を中心に確認する。
- イ．結合テストはモジュール同士の連携部分に焦点を当てる。
- ウ．利用者・発注者視点で要件充足を確認する。
- エ．独立的評価である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「単体テスト」に対応するため、正答候補「結合テスト」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「結合テスト」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「受入テスト」に対応するため、正答候補「結合テスト」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「監査」に対応するため、正答候補「結合テスト」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「結合テスト」を選ぶ根拠は次のとおりである。結合テストはモジュール同士の連携部分に焦点を当てる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0043 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：基礎

「テスト・品質・レビュー」の「受入テスト」について、候補「受入テスト」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．コードを実行せず解析する。
- イ．部品単位の検証である。
- ウ．受入テストは納入・利用可能性を判断するため、合意した要件や業務シナリオを確認する。
- エ．構成品の整合を確認する活動である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「静的解析」に対応するため、正答候補「受入テスト」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「単体テスト」に対応するため、正答候補「受入テスト」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「受入テスト」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「構成監査」に対応するため、正答候補「受入テスト」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。受入テストは納入・利用可能性を判断するため、合意した要件や業務シナリオを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0044 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：基礎

「テスト・品質・レビュー」の「ホワイトボックス」を復習している学習者が、候補「ユーザビリティテスト」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．外部仕様・入出力に基づく。
- イ．運用中の性能測定である。
- ウ．内部構造、制御フロー、条件等に基づいて網羅性を評価する。
- エ．使いやすさを評価する。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「ブラックボックステスト」に対応するため、誤答候補「ユーザビリティテスト」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「性能監視」に対応するため、誤答候補「ユーザビリティテスト」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「ホワイトボックステスト」に対応するため、誤答候補「ユーザビリティテスト」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「ユーザビリティテスト」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「ユーザビリティテスト」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。使いやすさを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0045 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」のうち「同値分割」を確認する誤答分析で、学習者が候補「ペアプログラミング」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．開発手法である。
- イ．同じ振る舞いが期待される入力領域を同値クラスへ分け、代表値を選ぶ。
- ウ．コード内部の命令実行を基準にする。
- エ．条件組合せ表を用いる別技法である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「ペアプログラミング」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「同値分割」に対応するため、誤答候補「ペアプログラミング」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「命令網羅」に対応するため、誤答候補「ペアプログラミング」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「デシジョンテーブルだけ」に対応するため、誤答候補「ペアプログラミング」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「ペアプログラミング」について、誤りの内容を説明できることが重要である。開発手法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0046 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」のうち「境界値分析」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「境界値分析」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．状態とイベントの組合せを確認する。
- イ．不具合は範囲の境界付近で発生しやすいため、境界内外の値を重点的に確認する。
- ウ．変更影響を確認する。
- エ．成果物を人が静的に確認する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「状態遷移テスト」に対応するため、正答候補「境界値分析」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「境界値分析」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「回帰テスト」に対応するため、正答候補「境界値分析」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「レビュー」に対応するため、正答候補「境界値分析」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「境界値分析」を選ぶ根拠は次のとおりである。不具合は範囲の境界付近で発生しやすいため、境界内外の値を重点的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0047 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」の「条件網羅」について、候補「条件網羅」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．各命令の実行を確認する。
- イ．判定結果全体の真・偽を確認する。
- ウ．条件網羅は複合判定内の各基本条件について真・偽の双方を実行することを求める。
- エ．一般的な標準名称ではない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「命令網羅」に対応するため、正答候補「条件網羅」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「判定網羅」に対応するため、正答候補「条件網羅」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「条件網羅」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「データ網羅」に対応するため、正答候補「条件網羅」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。条件網羅は複合判定内の各基本条件について真・偽の双方を実行することを求める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0048 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」の「回帰テスト」を復習している学習者が、候補「レビュー」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．最終受入が目的で、変更影響確認の総称ではない。
- イ．性能限界を確認する。
- ウ．変更による副作用を検出するため、既存テストを再実行する。
- エ．静的確認である。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「受入テストだけ」に対応するため、誤答候補「レビュー」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「負荷テスト」に対応するため、誤答候補「レビュー」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「回帰テスト」に対応するため、誤答候補「レビュー」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は誤答候補「レビュー」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「レビュー」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。静的確認である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0049 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」のうち「レビュー」を確認する誤答分析で、学習者が候補「動的テスト」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．実行結果を確認する。
- イ．レビューは実行を伴わない静的な品質保証活動で、早期欠陥検出に有効である。
- ウ．環境へ配置する。
- エ．データ保護活動である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「動的テスト」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「レビュー」に対応するため、誤答候補「動的テスト」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「デプロイ」に対応するため、誤答候補「動的テスト」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「バックアップ」に対応するため、誤答候補「動的テスト」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「動的テスト」について、誤りの内容を説明できることが重要である。実行結果を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0050 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：標準

「テスト・品質・レビュー」のうち「欠陥密度」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「B」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．Aの欠陥密度は2件/KLOCでBより低い。
- イ．Aは2件/KLOC、Bは3件/KLOCなのでBの方が高い。
- ウ．欠陥件数を規模で正規化すると異なる。
- エ．同一基準で欠陥密度を比較できる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「A」に対応するため、正答候補「B」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「B」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「同じ」に対応するため、正答候補「B」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「KLOCでは比較できない」に対応するため、正答候補「B」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「B」を選ぶ根拠は次のとおりである。Aは2件/KLOC、Bは3件/KLOCなのでBの方が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0051 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：応用

「テスト・品質・レビュー」の「テスト十分性」について、候補「件数だけでは十分性を判断できず、要件・リスク・網羅性・欠陥傾向に基づいて追加テストを設計する必要がある。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．重要範囲未確認なら不十分である。
- イ．障害時品質を確認できない。
- ウ．テスト品質は単なる件数ではなく、重要論点をどれだけ検証できたかで評価する。
- エ．テストが弱く欠陥を見つけられていない可能性もある。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「テスト件数が多ければ内容に関係なく十分である。」に対応するため、正答候補「件数だけでは十分性を判断できず、要件・リスク・網羅性・欠陥傾向に基づいて追加テストを設計する必要がある。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「正常系だけ通れば異常系は不要である。」に対応するため、正答候補「件数だけでは十分性を判断できず、要件・リスク・網羅性・欠陥傾向に基づいて追加テストを設計する必要がある。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「件数だけでは十分性を判断できず、要件・リスク・網羅性・欠陥傾向に基づいて追加テストを設計する必要がある。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「欠陥が見つからないほど必ずテスト品質が高い。」に対応するため、正答候補「件数だけでは十分性を判断できず、要件・リスク・網羅性・欠陥傾向に基づいて追加テストを設計する必要がある。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。テスト品質は単なる件数ではなく、重要論点をどれだけ検証できたかで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0052 5-2 実装・テスト・保守 > テスト・品質・レビュー | 難易度：応用

「テスト・品質・レビュー」の「レビュー指標」を復習している学習者が、候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．品質改善に逆行する。
- イ．早期欠陥検出の機会を失う。
- ウ．単一指標を目標化すると行動が歪むことがあるため、品質目的に沿った複数指標で評価する。
- エ．同じ問題を強める可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「重大欠陥を記録しない。」に対応するため、誤答候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「レビューを廃止する。」に対応するため、誤答候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「指摘件数だけでなく重大度、欠陥除去効果、後工程流出、レビュー工数など複数指標で評価する。」に対応するため、誤答候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「指摘件数の目標だけをさらに高くする。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。同じ問題を強める可能性がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0053 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：基礎

「導入・保守・廃棄」のうち「導入」を確認する誤答分析で、学習者が候補「利用者教育を必ず禁止する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．定着を阻害する。
- イ．導入はソフトウェア配置だけでなく、業務・データ・運用体制を含めて計画する必要がある。
- ウ．この対応は障害・品質・セキュリティなどのリスクを高める。
- エ．移行事故につながる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「利用者教育を必ず禁止する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「移行手順、教育、運用手順、切替判定、切戻し方法を準備し、リハーサルする。」に対応するため、誤答候補「利用者教育を必ず禁止する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「切戻しを考えず本番で初めて移行する。」に対応するため、誤答候補「利用者教育を必ず禁止する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「旧データの整合性確認を省略する。」に対応するため、誤答候補「利用者教育を必ず禁止する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「利用者教育を必ず禁止する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。定着を阻害する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0054 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：基礎

「導入・保守・廃棄」のうち「保守分類」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「是正保守」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．環境変化へ適応させる保守である。
- イ．障害・欠陥を修正して正しい状態へ戻す保守を是正保守という。
- ウ．性能・保守性等の改善を行う。
- エ．将来の障害を予防するための改善である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「適応保守」に対応するため、正答候補「是正保守」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「是正保守」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「完全化保守」に対応するため、正答候補「是正保守」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「予防保守」に対応するため、正答候補「是正保守」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「是正保守」を選ぶ根拠は次のとおりである。障害・欠陥を修正して正しい状態へ戻す保守を是正保守という。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0055 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：標準

「導入・保守・廃棄」の「適応保守」について、候補「適応保守」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．既存欠陥修正が中心である。
- イ．将来の問題予防が中心である。
- ウ．外部環境の変更に合わせてソフトウェアを変更するのが適応保守である。
- エ．利用終了の活動である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「是正保守」に対応するため、正答候補「適応保守」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「予防保守」に対応するため、正答候補「適応保守」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「適応保守」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「廃棄」に対応するため、正答候補「適応保守」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。外部環境の変更に合わせてソフトウェアを変更するのが適応保守である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0056 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：標準

「導入・保守・廃棄」の「切替方式」を復習している学習者が、候補「段階切替」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．一時点で新システムへ全面切替する。
- イ．切替方式ではない。
- ウ．並行稼働は安全性が高い一方、二重運用コストやデータ同期の負担がある。
- エ．部門・機能等を段階的に移す。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「一斉切替」に対応するため、誤答候補「段階切替」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「廃棄」に対応するため、誤答候補「段階切替」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「並行切替」に対応するため、誤答候補「段階切替」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「段階切替」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「段階切替」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。部門・機能等を段階的に移す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0057 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：標準

「導入・保守・廃棄」のうち「保守変更管理」を確認する誤答分析で、学習者が候補「テスト可能でも必ず省略する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．品質リスクが高い。
- イ．緊急性が高くても変更の追跡性と影響管理は必要である。
- ウ．再発防止・追跡ができない。
- エ．構成不整合になる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「テスト可能でも必ず省略する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「緊急手順に従い、変更内容・承認・テスト・反映・事後レビューを記録する。」に対応するため、誤答候補「テスト可能でも必ず省略する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「緊急なら記録を一切残さない。」に対応するため、誤答候補「テスト可能でも必ず省略する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「本番ソースを直接修正し版管理へ反映しない。」に対応するため、誤答候補「テスト可能でも必ず省略する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「テスト可能でも必ず省略する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。品質リスクが高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0058 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：標準

「導入・保守・廃棄」のうち「廃棄」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．漏えいリスクが高い。
- イ．廃棄工程でもデータ保護、法令・契約、記録保持、資産管理を考慮する必要がある。
- ウ．法令・契約違反になり得る。
- エ．不正利用リスクが残る。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「機密データ入り媒体をそのまま一般ごみに出す。」に対応するため、正答候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「保存義務のある記録を確認せず全削除する。」に対応するため、正答候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「廃棄対象アカウントを永久に有効化する。」に対応するため、正答候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「保存義務・移行要件を確認し、不要になった機密データや媒体を復元困難な方法で安全に消去・廃棄する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。廃棄工程でもデータ保護、法令・契約、記録保持、資産管理を考慮する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0059 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：応用

「導入・保守・廃棄」の「移行失敗」について、候補「移行計画では切替成功条件だけでなく、失敗時の切戻し条件・手順・データ整合性も事前設計・訓練する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスク管理にならない。
- イ．切戻し不能になる。
- ウ．移行は不可逆な操作を含むため、失敗シナリオと回復可能性を事前に検証する必要がある。
- エ．事前設計が必要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「移行は必ず成功する前提でよい。」に対応するため、正答候補「移行計画では切替成功条件だけでなく、失敗時の切戻し条件・手順・データ整合性も事前設計・訓練する。」の根拠にはならない。

イ：この説明は別候補「旧システムは移行開始時に即時破壊する。」に対応するため、正答候補「移行計画では切替成功条件だけでなく、失敗時の切戻し条件・手順・データ整合性も事前設計・訓練する。」の根拠にはならない。

ウ：この説明は正答候補「移行計画では切替成功条件だけでなく、失敗時の切戻し条件・手順・データ整合性も事前設計・訓練する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

エ：この説明は別候補「データ整合性は障害後に考えればよい。」に対応するため、正答候補「移行計画では切替成功条件だけでなく、失敗時の切戻し条件・手順・データ整合性も事前設計・訓練する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。移行は不可逆な操作を含むため、失敗シナリオと回復可能性を事前に検証する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0060 5-2 実装・テスト・保守 > 導入・保守・廃棄 | 難易度：応用

「導入・保守・廃棄」の「保守性」を復習している学習者が、候補「仕様を確認せず一括書換えする。」を正答だと思っている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．保守負荷が増える。
- イ．回帰リスクが高まる。
- ウ．重複を減らし責務を整理すると変更箇所が局所化し、回帰リスクを抑えやすい。
- エ．挙動変更の危険がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「さらにコピーを増やす。」に対応するため、誤答候補「仕様を確認せず一括書換えする。」の問題点を直接説明していない。

イ：この説明は別候補「既存テストを削除して改修を速める。」に対応するため、誤答候補「仕様を確認せず一括書換えする。」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「重複ロジックを共通化し、テストを整備した上で段階的にリファクタリングする。」に対応するため、誤答候補「仕様を確認せず一括書換えする。」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は誤答候補「仕様を確認せず一括書換えする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「仕様を確認せず一括書換えする。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。挙動変更の危険がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0061 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：基礎

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「ウォーターフォール」を確認する誤答分析で、学習者が候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．反復型・アジャイルの特徴に近い。
- イ．ウォーターフォールは工程を順序立てて進め、各工程の成果物やレビューを重視する代表的なライフサイクルモデルである。
- ウ．工程管理と逆である。
- エ．工程順序として不適切である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「要件定義、設計、実装、テストなどの工程を段階的に進め、前工程の成果物を後工程へ引き渡す。」に対応するため、誤答候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「工程や成果物を一切定義しない。」に対応するため、誤答候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「運用開始後だけ設計を行う。」に対応するため、誤答候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「短い反復を前提に毎日要求を全面変更することだけを目的とする。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。反復型・アジャイルの特徴に近い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0062 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：基礎

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「SLCP」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．ライフサイクルプロセスの体系である。
- イ．SLCPIは開発工程だけでなく、合意、運用、保守、支援、管理など広いライフサイクルを扱う。
- ウ．今回問われている内容とは適用対象が異なる。
- エ．対象が限定的すぎる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「プログラミング言語の構文だけを定める規格」に対応するため、正答候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「CPU命令セットを定める規格」に対応するため、正答候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「Web画面配色だけを定める標準」に対応するため、正答候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「ソフトウェアの取得、供給、開発、運用、保守などライフサイクル全体に関わるプロセスを体系化する考え方」を選ぶ根拠は次のとおりである。SLCPIは開発工程だけでなく、合意、運用、保守、支援、管理など広いライフサイクルを扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0063 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：基礎

「ウォーターフォール・SLCP」の「共通フレーム」について、候補「システム、ソフトウェア、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄までの作業や役割を共通の枠組みで整理する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．ベンダ固有の製品手順ではない。
- イ．目的が異なる。
- ウ．発注者と受注者などが同じ用語・プロセス観でライフサイクルを整理するための共通枠組みである。

エ．今回問われている内容とは適用対象が異なる。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「特定ベンダの製品だけに適用する操作マニュアル」に対応するため、正答候補「システム、ソフトウェア、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄までの作業や役割を共通の枠組みで整理する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「暗号アルゴリズムの強度評価規格」に対応するため、正答候補「システム、ソフトウェア、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄までの作業や役割を共通の枠組みで整理する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「システム、ソフトウェア、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄までの作業や役割を共通の枠組みで整理する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「プロジェクト収益だけを計算する会計基準」に対応するため、正答候補「システム、ソフトウェア、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄までの作業や役割を共通の枠組みで整理する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。発注者と受注者などが同じ用語・プロセス観でライフサイクルを整理するための共通枠組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0064 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：標準

「ウォーターフォール・SLCP」の「V字モデル」を復習している学習者が、候補「ERモデル」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．分散システムの特性に関する。
- イ．通信機能を階層化する。
- ウ．V字モデルは開発側の工程と対応する検証・妥当性確認側のテストレベルを関連付ける。
- エ．データ構造を表す。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「CAP定理」に対応するため、誤答候補「ERモデル」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「OSI参照モデル」に対応するため、誤答候補「ERモデル」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「V字モデル」に対応するため、誤答候補「ERモデル」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は誤答候補「ERモデル」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「ERモデル」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。データ構造を表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0065 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：標準

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「工程完了判定」を確認する誤答分析で、学習者が候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．トレーサビリティを失う。
- イ．工程移行のゲートでは成果物の完成度・承認・未解決事項を確認する。
- ウ．手戻りリスクが高い。
- エ．変更管理が必要である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「基本設計成果物が要件を満たし、レビュー指摘が必要な基準まで解決されたことを確認する。」に対応するため、誤答候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「成果物を確認せず日付だけで次工程へ進む。」に対応するため、誤答候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「要件変更を全て口頭だけで扱う。」に対応するため、誤答候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「基本設計書を削除して次工程へ進む。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。トレーサビリティを失う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0066 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：標準

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「手戻り」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．一般に逆である。
- イ．上流欠陥を下流まで持ち越すと影響範囲が広がりやすいため、上流レビューが重要である。
- ウ．検出され得る。
- エ．通常影響する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「要件誤りは後工程ほど修正しやすくコストが必ず下がる。」に対応するため、正答候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「システムテストでは要件との不整合を検出できない。」に対応するため、正答候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「要件変更は設計・実装に一切影響しない。」に対応するため、正答候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「設計・実装・テスト成果物まで広く修正する必要があり、手戻りコストが大きくなる。」を選ぶ根拠は次のとおりである。上流欠陥を下流まで持ち越すと影響範囲が広がりやすいため、上流レビューが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0067 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：標準

「ウォーターフォール・SLCP」の「テラリング」について、候補「目的・リスク・規模を踏まえ、必要なプロセスや成果物を省略・統合・詳細化する理由を明確にして調整する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスク評価と根拠がない。
- イ．テラリングの考え方と異なる。
- ウ．標準を機械的に全適用するのではなく、目的を損なわない範囲でプロジェクト特性へ適合させる。
- エ．品質リスクを高める。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「面倒な工程を理由なく全て削除する。」に対応するため、正答候補「目的・リスク・規模を踏まえ、必要なプロセスや成果物を省略・統合・詳細化する理由を明確にして調整する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「標準文書を一字も変えてはいけないとする。」に対応するため、正答候補「目的・リスク・規模を踏まえ、必要なプロセスや成果物を省略・統合・詳細化する理由を明確にして調整する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「目的・リスク・規模を踏まえ、必要なプロセスや成果物を省略・統合・詳細化する理由を明確にして調整する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「品質保証だけを必ず削除する。」に対応するため、正答候補「目的・リスク・規模を踏まえ、必要なプロセスや成果物を省略・統合・詳細化する理由を明確にして調整する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。標準を機械的に全適用するのではなく、目的を損なわない範囲でプロジェクト特性へ適合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0068 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：標準

「ウォーターフォール・SLCP」の「反復との比較」を復習している学習者が、候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．不確実性を無視している。
- イ．どのモデルでも管理が必要である。
- ウ．不確実性が高い場合はフィードバック頻度を高める反復型が適することがある。
- エ．早期フィードバックを失う。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「要求が不明でも全要件を最初に完全固定できたと仮定する。」に対応するため、誤答候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「要件変更を記録しない。」に対応するため、誤答候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「短い反復で動く成果物を確認しながら要求を具体化する開発モデルの適用を検討する。」に対応するため、誤答候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「利用者確認を本番後まで禁止する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。早期フィードバックを失う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0069 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：応用

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「ライフサイクル選択」を確認する誤答分析で、学習者が候補「UIの利用者確認を禁止する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．要求適合性が低下し得る。
- イ．ライフサイクルモデルは二者択一ではなく、規制・不確実性・品質要求に合わせて適切に構成できる。
- ウ．特性差を無視している。
- エ．監査・承認要件を満たさない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「UIの利用者確認を禁止する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「領域ごとのリスクと制約に応じ、統制された工程・文書化と反復的开发を組み合わせた。」に対応するため、誤答候補「UIの利用者確認を禁止する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「全領域を必ず一つの手法だけで統一し他手法を禁止する。」に対応するため、誤答候補「UIの利用者確認を禁止する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「規制要求があっても証跡を一切残さない。」に対応するため、誤答候補「UIの利用者確認を禁止する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「UIの利用者確認を禁止する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。要求適合性が低下し得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0070 5-3 開発プロセス・管理技術 > ウォーターフォール・SLCP | 難易度：応用

「ウォーターフォール・SLCP」のうち「プロセス改善」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．問題を見えなくするだけである。
- イ．個人の注意だけでなく、再発を生むプロセス要因を分析し、改善効果を定量・定性で確認する必要がある。
- ウ．再発要因が残る。
- エ．有効性を判断できない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「欠陥記録を削除して件数を減らす。」に対応するため、正答候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「毎回担当者だけを変更し原因分析しない。」に対応するため、正答候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「改善後の効果を測定しない。」に対応するため、正答候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「欠陥発生工程・流出工程・原因を分析し、レビュー基準や自動化、教育などの改善策を実施して効果を測定する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。個人の注意だけでなく、再発を生むプロセス要因を分析し、改善効果を定量・定性で確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0071 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：基礎

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「アジャイル」について、候補「短い反復で動く成果物を提供し、利用者や関係者からのフィードバックを取り込んで適応する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．変化への適応を重視する考え方と異なる。
- イ．品質活動は必要である。
- ウ．アジャイルでは価値あるソフトウェアを早く継続的に届け、変化へ対応することを重視する。
- エ．フィードバックを重視する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「全要件を最初に固定し変更を永久に禁止する。」に対応するため、正答候補「短い反復で動く成果物を提供し、利用者や関係者からのフィードバックを取り込んで適応する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「テストを一切行わない。」に対応するため、正答候補「短い反復で動く成果物を提供し、利用者や関係者からのフィードバックを取り込んで適応する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「短い反復で動く成果物を提供し、利用者や関係者からのフィードバックを取り込んで適応する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「利用者との対話を禁止する。」に対応するため、正答候補「短い反復で動く成果物を提供し、利用者や関係者からのフィードバックを取り込んで適応する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。アジャイルでは価値あるソフトウェアを早く継続的に届け、変化へ対応することを重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0072 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：基礎

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「Scrum Team」を復習している学習者が、候補「Scrum Masterと顧客だけ」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．Scrum Guideの責任区分ではない。
- イ．Scrum Teamは複数責任区分で構成される。
- ウ．Scrum Teamは一人のProduct Owner、一人のScrum Master、Developersで構成される。
- エ．Developers等が欠けている。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「Project Manager、Tester、Auditorだけ」に対応するため、誤答候補「Scrum Masterと顧客だけ」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「Product Ownerだけ」に対応するため、誤答候補「Scrum Masterと顧客だけ」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「Product Owner、Scrum Master、Developers」に対応するため、誤答候補「Scrum Masterと顧客だけ」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「Scrum Masterと顧客だけ」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「Scrum Masterと顧客だけ」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。Developers等が欠けている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0073 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：基礎

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「Sprint」を確認する誤答分析で、学習者が候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．固定長で継続的に繰り返す。
- イ．SprintはScrumの他のイベントや作業を包含する固定長イベントである。
- ウ．今回問われている対象の目的には該当しない。
- エ．価値あるIncrementを生み出す活動を含む。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

イ：この説明は別候補「価値を生み出すための固定長のイベントで、1か月以内の期間で繰り返される。」に対応するため、誤答候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「Product Backlogを廃棄するイベント」に対応するため、誤答候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「開発を行わず会議だけをする期間」に対応するため、誤答候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「本番障害が起きた時だけ開始する無期限イベント」について、誤りの内容を説明できることが重要である。固定長で継続的に繰り返す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0074 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：基礎

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「Product Backlog」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．作業項目を管理する作成物である。
- イ．Product Backlogは製品改善に必要な項目を順序付けて管理するScrumの作成物である。
- ウ．継続的に洗練される。
- エ．Scrumの作成物ではない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「完了済みソースコードだけを保存するリポジトリ」に対応するため、正答候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」の根拠にはならない。

イ：この説明は正答候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

ウ：この説明は別候補「Sprint中に変更してはいけない契約書」に対応するため、正答候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「監査報告書」に対応するため、正答候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「Product Goalを達成するために必要な作業を、創発的かつ順序付けて管理する唯一の情報源」を選ぶ根拠は次のとおりである。Product Backlogは製品改善に必要な項目を順序付けて管理するScrumの作成物である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0075 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「Product Owner」について、候補「Product Owner」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．Scrumの確立・有効性を支援する責任である。
- イ．Sprint内の計画・品質等に責任を持つがProduct Backlog管理責任とは異なる。
- ウ．Product OwnerはScrum Teamの成果である製品価値の最大化とProduct Backlog管理に責任を持つ。
- エ．Scrum Guide上の責任区分ではない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「Scrum Master」に対応するため、正答候補「Product Owner」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「Developersだけ」に対応するため、正答候補「Product Owner」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「Product Owner」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「外部監査人」に対応するため、正答候補「Product Owner」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。Product OwnerはScrum Teamの成果である製品価値の最大化とProduct Backlog管理に責任を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0076 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「Daily Scrum」を復習している学習者が、候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．Backlog Refinementと異なる。
- イ．Sprint Review等の目的とも異なる。
- ウ．Daily ScrumはDevelopersの15分イベントで、Sprint Goalへの進捗確認と計画調整に使う。
- エ．目的が異なる。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「Product Backlogを全件詳細化する。」に対応するため、誤答候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「完成製品を正式受入する。」に対応するため、誤答候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「Sprint Goalに向けた進捗を検査し、今後の作業計画を適応する。」に対応するため、誤答候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「経営層へ月次予算を承認してもらう。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。目的が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0077 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「Sprint Review」を確認する誤答分析で、学習者が候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．別イベントである。
- イ．Sprint Reviewは価値ある成果と次の選択肢を関係者と検討する場である。
- ウ．Sprint Retrospectiveが中心である。
- エ．透明性に反する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

イ：この説明は別候補「Sprintの成果と環境変化を関係者と検査し、今後のProduct Backlogの適応を検討する。」に対応するため、誤答候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「チーム内部の働き方改善だけを話す。」に対応するため、誤答候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「不具合を隠して成果を見せない。」に対応するため、誤答候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「Daily Scrumの代わりに毎日実施する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。別イベントである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0078 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「Retrospective」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．目的が異なる。
- イ．RetrospectiveはScrum Team自身の働き方を検査・適応するイベントである。
- ウ．Sprint Reviewが中心である。
- エ．改善が目的である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「顧客契約を法務承認するだけ。」に対応するため、正答候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」の根拠にはならない。

イ：この説明は正答候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

ウ：この説明は別候補「製品機能を関係者へデモするだけ。」に対応するため、正答候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「過去の問題を責任追及だけに使う。」に対応するため、正答候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「品質と有効性を高めるため、個人・相互作用・プロセス・ツールなどを振り返り改善を計画する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。RetrospectiveはScrum Team自身の働き方を検査・適応するイベントである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0079

5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「DevOps」について、候補「開発と運用の協働、自動化、継続的フィードバックを重視して、変更を安全かつ迅速に価値へつなげる。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．DevOpsと逆である。
- イ．自動化の利点を失う。
- ウ．DevOpsは組織的な協働と技術的自動化を通じて開発・運用の分断を減らす考え方である。
- エ．品質と速度の両立が重要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は別候補「開発部門と運用部門の情報共有を禁止する。」に対応するため、正答候補「開発と運用の協働、自動化、継続的フィードバックを重視して、変更を安全かつ迅速に価値へつなげる。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「本番変更を全て手作業に戻す。」に対応するため、正答候補「開発と運用の協働、自動化、継続的フィードバックを重視して、変更を安全かつ迅速に価値へつなげる。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「開発と運用の協働、自動化、継続的フィードバックを重視して、変更を安全かつ迅速に価値へつなげる。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「テストを省略して速度だけを上げる。」に対応するため、正答候補「開発と運用の協働、自動化、継続的フィードバックを重視して、変更を安全かつ迅速に価値へつなげる。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。DevOpsは組織的な協働と技術的自動化を通じて開発・運用の分断を減らす考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0080

5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：標準

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」の「CI」を復習している学習者が、候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．CIと逆である。
- イ．CIでは版管理が重要である。
- ウ．統合を継続的に行うことで、大規模な統合手戻りを減らしやすい。
- エ．CIは必ず本番配布を意味しない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は別候補「統合をリリース直前まで避ける。」に対応するため、誤答候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「ソース管理を不要にする。」に対応するため、誤答候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「小さな変更を高頻度で統合し、自動ビルド・自動テストで統合問題を早期発見する。」に対応するため、誤答候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「テスト結果を見ず常に本番へ自動投入する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。CIは必ず本番配布を意味しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0081 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：応用

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「CD区別」を確認する誤答分析で、学習者が候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．問われている関係や方向を逆に捉えた内容である。
- イ．両者はパイプライン自動化を重視するが、本番リリースの自動化範囲が異なる。
- ウ．どちらも品質確認が重要である。
- エ．一般に本番投入の自動化範囲で区別される。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「Deliveryは本番投入可能な状態まで自動化し最終投入を人が判断できるのに対し、Deploymentは条件を満たした変更を本番まで自動反映する。」に対応するため、誤答候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「Deliveryはテストせず、Deploymentだけテストする。」に対応するため、誤答候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「両者は完全に同義で区別できない。」に対応するため、誤答候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「Deliveryはソース管理を禁止する。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。問われている関係や方向を逆に捉えた内容である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0082 5-3 開発プロセス・管理技術 > アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD | 難易度：応用

「アジャイル・Scrum・DevOps・CI/CD」のうち「Scrum変更」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．自己管理とGoalの整合を損なう。
- イ．Sprint中も学習に応じて計画は適応できるが、Sprint Goalを中心に透明に調整する。
- ウ．計画は学習に応じ適応できる。
- エ．焦点が失われる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「新要求が出たら関係者が勝手にDevelopersへ作業を直接追加する。」に対応するため、正答候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「Sprint中はどんな事情でも一文字も変更できない。」に対応するため、正答候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「Sprint Goalを無視して全要求を即座に割り込ませる。」に対応するため、正答候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「Product OwnerとDevelopersがSprint Goalを損なわない範囲でSprint Backlogの作業を調整し、Goal自体が不要ならSprint中止もProduct Ownerが判断し得る。」を選ぶ根拠は次のとおりである。Sprint中も学習に応じて計画は適応できるが、Sprint Goalを中心に透明に調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0083

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：基礎

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」の「FP法」について、候補「利用者から見た機能量を入力・出力・照会・内部論理ファイル等に基づいて評価し、規模見積りに利用する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．LOC見積りとは異なる。
- イ．FP法ではない。
- ウ．FP法は特定のプログラミング言語の行数ではなく、外部から見た機能規模を評価する。
- エ．規模見積りではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は別候補「ソースコード行数だけを事前に正確に数える方式」に対応するため、正答候補「利用者から見た機能量を入力・出力・照会・内部論理ファイル等に基づいて評価し、規模見積りに利用する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「CPUクロック数から工数を直接求める方式」に対応するため、正答候補「利用者から見た機能量を入力・出力・照会・内部論理ファイル等に基づいて評価し、規模見積りに利用する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「利用者から見た機能量を入力・出力・照会・内部論理ファイル等に基づいて評価し、規模見積りに利用する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「欠陥件数だけから売上高を計算する方式」に対応するため、正答候補「利用者から見た機能量を入力・出力・照会・内部論理ファイル等に基づいて評価し、規模見積りに利用する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。FP法は特定のプログラミング言語の行数ではなく、外部から見た機能規模を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0084

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：基礎

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」の「構成管理」を復習している学習者が、候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」を正答だと思っている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．追跡性を失う。
- イ．変更履歴を追跡できない。
- ウ．構成管理は何が正式版か、どの変更が含まれるかを追跡可能にする。
- エ．むしろ重要な対象である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は別候補「全成果物を版番号なしで上書きする。」に対応するため、誤答候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「変更記録を削除する。」に対応するため、誤答候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「ソース、文書、設定、ライブラリ等の構成品を識別し、版・変更・状態を統制する。」に対応するため、誤答候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「本番だけ構成管理の対象外にする。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。むしろ重要な対象である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0085

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：標準

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」のうち「類推見積り」を確認する誤答分析で、学習者が候補「ボトムアップ見積りだけ」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．作業を詳細分解して積み上げる方法である。
- イ．類似事例の実績を基に補正するため、十分に比較可能な過去データがある場合に有効である。
- ウ．不確実な所要時間を三点見積り等で評価する手法である。
- エ．DB設計手法である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は誤答候補「ボトムアップ見積りだけ」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

- イ：この説明は別候補「類推見積り」に対応するため、誤答候補「ボトムアップ見積りだけ」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「PERT」に対応するため、誤答候補「ボトムアップ見積りだけ」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は別候補「正規化」に対応するため、誤答候補「ボトムアップ見積りだけ」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「ボトムアップ見積りだけ」について、誤りの内容を説明できることが重要である。作業を詳細分解して積み上げる方法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0086

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：標準

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」のうち「三点見積り」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「8日」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．最可能値だけを採用している。
- イ． $(4+4 \times 7+16)/6=48/6=8$ 日である。
- ウ．計算結果と一致しない。
- エ．三点見積り式と一致しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：この説明は別候補「7日」に対応するため、正答候補「8日」の根拠にはならない。
- イ：この説明は正答候補「8日」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- ウ：この説明は別候補「9日」に対応するため、正答候補「8日」の根拠にはならない。
- エ：この説明は別候補「12日」に対応するため、正答候補「8日」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「8日」を選ぶ根拠は次のとおりである。 $(4+4 \times 7+16)/6=48/6=8$ 日である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0087

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：標準

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」の「再利用」について、候補「部品の公開インタフェース、版、互換性、品質、脆弱性、利用条件を管理する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．派生版が乱立する。
- イ．影響範囲を特定できない。
- ウ．再利用は効率を高める一方、共通部品の欠陥が多製品へ波及するため統制が必要である。
- エ．互換性管理ができない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は別候補「利用製品ごとに勝手に内部改造し履歴を残さない。」に対応するため、正答候補「部品の公開インタフェース、版、互換性、品質、脆弱性、利用条件を管理する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「脆弱性が見つかってでも利用先を把握しない。」に対応するため、正答候補「部品の公開インタフェース、版、互換性、品質、脆弱性、利用条件を管理する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「部品の公開インタフェース、版、互換性、品質、脆弱性、利用条件を管理する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「版番号を付けず全製品へ配布する。」に対応するため、正答候補「部品の公開インタフェース、版、互換性、品質、脆弱性、利用条件を管理する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。再利用は効率を高める一方、共通部品の欠陥が多製品へ波及するため統制が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0088

5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：標準

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」の「変更管理」を復習している学習者が、候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．追跡できない。
- イ．必要な変更も実施できない。
- ウ．変更管理は無秩序な修正を防ぎ、変更理由と影響を追跡可能にする。
- エ．必要な管理・統制が欠けているため、適切な運用とはいえない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は別候補「変更後に何を変えたか記録しない。」に対応するため、誤答候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「全変更を理由なく拒否する。」に対応するため、誤答候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「変更要求を記録し、影響・リスク・優先度を評価し、承認後に実施・テスト・記録する。」に対応するため、誤答候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「依頼者が口頭で言えば誰でも本番を即修正する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。必要な管理・統制が欠けているため、適切な運用とはいえない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0089 5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：応用

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」のうち「ベースライン」を確認する誤答分析で、学習者が候補「バックログ」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．作業項目一覧である。
- イ．ベースラインはレビュー・承認された構成品の基準状態で、以後の変更は管理された手続で行う。
- ウ．暫定回避策である。
- エ．DB回復等の用語である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「バックログ」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「ベースライン」に対応するため、誤答候補「バックログ」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「ワークアラウンド」に対応するため、誤答候補「バックログ」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「チェックポイント」に対応するため、誤答候補「バックログ」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「バックログ」について、誤りの内容を説明できることが重要である。作業項目一覧である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0090 5-3 開発プロセス・管理技術 > 見積り・再利用・構成 / 変更管理 | 難易度：応用

「見積り・再利用・構成 / 変更管理」のうち「見積り更新」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．現実との乖離が拡大する。
- イ．見積りは一度決めた数字を守ること自体が目的ではなく、情報の精度向上に応じて更新する。
- ウ．スコープ管理ができない。
- エ．合理的な再見積りではない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「最初の100人日を根拠なく絶対値として固定する。」に対応するため、正答候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「追加要件を記録せず隠す。」に対応するため、正答候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「実績データを無視して楽観値だけへ変更する。」に対応するため、正答候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「新しい前提・実績・リスクを反映して再見積りし、差異の根拠と影響を関係者へ説明して計画を更新する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。見積りは一度決めた数字を守ること自体が目的ではなく、情報の精度向上に応じて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0091 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：基礎

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「プロジェクト憲章」について、候補「プロジェクトを正式に認可し、目的、主要成果物、プロジェクトマネージャの責任・権限などを明確にする。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．WBSやWBS辞書の役割に近く、プロジェクト憲章の主目的ではない。
- イ．テスト仕様書の役割である。
- ウ．プロジェクト憲章はプロジェクトを正式に開始するための基本文書で、ビジネス上の必要性や目標、責任・権限などを示す。
- エ．資源管理の一部にはなり得るが、憲章の主目的ではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「WBSの全ワークパッケージの作業手順を詳細に記述する。」に対応するため、正答候補「プロジェクトを正式に認可し、目的、主要成果物、プロジェクトマネージャの責任・権限などを明確にする。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「全てのテストケースと期待結果を定義する。」に対応するため、正答候補「プロジェクトを正式に認可し、目的、主要成果物、プロジェクトマネージャの責任・権限などを明確にする。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「プロジェクトを正式に認可し、目的、主要成果物、プロジェクトマネージャの責任・権限などを明確にする。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「全ステークホルダの勤務時間だけを管理する。」に対応するため、正答候補「プロジェクトを正式に認可し、目的、主要成果物、プロジェクトマネージャの責任・権限などを明確にする。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。プロジェクト憲章はプロジェクトを正式に開始するための基本文書で、ビジネス上の必要性や目標、責任・権限などを示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0092 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：基礎

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「WBS」を復習している学習者が、候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．ステークホルダ分析の一例でありWBSではない。
- イ．WBSはプロジェクトスコープを階層化し、下位ではワークパッケージなどの管理可能な単位へ分解する。
- ウ．監査記録でありWBSではない。
- エ．障害分析の図でありWBSではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「ステークホルダの権力と関心だけを一覧化したもの。」に対応するため、誤答候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「プロジェクトの成果物や作業を、管理可能な単位へ階層的に要素分解したもの。」に対応するため、誤答候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「完成後の監査指摘だけを一覧化したもの。」に対応するため、誤答候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「ネットワーク障害の原因を木構造で整理したもの。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。障害分析の図でありWBSではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0093 5-4 プロジェクトマネジメント > 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：基礎

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」のうち「ステークホルダ登録簿」を確認する誤答分析で、学習者が候補「全テストケースの実行ログ。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．テスト成果物である。
- イ．ソフトウェア構成情報であり、ステークホルダ登録簿ではない。
- ウ．資産・ネットワーク管理情報である。
- エ．ステークホルダを識別し、プロジェクトへの影響や期待を把握することで、適切な関与・コミュニケーションを計画できる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「全テストケースの実行ログ。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「ソースコードの全関数一覧。」に対応するため、誤答候補「全テストケースの実行ログ。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「全サーバのMACアドレス一覧。」に対応するため、誤答候補「全テストケースの実行ログ。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「主要なステークホルダ、その関心、影響力、期待、関与方針などの管理に必要な情報。」に対応するため、誤答候補「全テストケースの実行ログ。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「全テストケースの実行ログ。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。テスト成果物である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0094 5-4 プロジェクトマネジメント > 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：標準

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」のうち「CCB」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．利用者窓口としてインシデントやサービス要求を受け付ける機能である。
- イ．CCBは変更要求の影響を統合的に評価し、承認・却下などを判断するために用いられる。
- ウ．外部監査を行う主体であり、通常のプロジェクト変更承認組織ではない。
- エ．名前解決機能である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「サービスデスク」に対応するため、正答候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「監査法人」に対応するため、正答候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「DNSサーバ」に対応するため、正答候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「CCB（Change Control Board：変更管理委員会）」を選ぶ根拠は次のとおりである。CCBは変更要求の影響を統合的に評価し、承認・却下などを判断するために用いられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0095 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：標準

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「100パーセントルール」について、候補「親要素のスコープは、その直下の子要素のスコープを合計すると100%表現されるように分解する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．進捗報告のルールではない。
- イ．資源稼働率のルールではない。
- ウ．100パーセントルールは、上位スコープの全てを下位要素で漏れなく表現し、不要な作業も含めない考え方である。
- エ．変更管理の考え方ではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「全作業の進捗率を常に100%として報告する。」に対応するため、正答候補「親要素のスコープは、その直下の子要素のスコープを合計すると100%表現されるように分解する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「全メンバの稼働率を常に100%にする。」に対応するため、正答候補「親要素のスコープは、その直下の子要素のスコープを合計すると100%表現されるように分解する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「親要素のスコープは、その直下の子要素のスコープを合計すると100%表現されるように分解する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「全変更要求を100%承認する。」に対応するため、正答候補「親要素のスコープは、その直下の子要素のスコープを合計すると100%表現されるように分解する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。100パーセントルールは、上位スコープの全てを下位要素で漏れなく表現し、不要な作業も含めない考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0096 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：標準

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「スコープクリープ」を復習している学習者が、候補「回帰テスト」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．本来順次実施する活動を並行化して期間短縮を図る手法である。
- イ．承認されたスコープを管理せず、非公式な追加が累積して範囲が拡大することをスコープクリープという。
- ウ．資源制約に合わせスケジュールを調整する手法である。
- エ．変更後の既存機能への影響を確認するテストである。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「ファストトラッキング」に対応するため、誤答候補「回帰テスト」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「プロジェクトスコープのクリープ」に対応するため、誤答候補「回帰テスト」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「資源平準化」に対応するため、誤答候補「回帰テスト」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「回帰テスト」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「回帰テスト」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。変更後の既存機能への影響を確認するテストである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0097 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：標準

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」のうち「RAM」を確認する誤答分析で、学習者が候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスクをカテゴリ別に階層化する構造である。
- イ．作業順序や所要時間を分析するための図である。
- ウ．RAMはWBSの作業と組織・担当者を対応付け、責任分担を可視化する。
- エ．サービス構成情報を管理するデータベースである。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「PERT図」に対応するため、誤答候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「RAM（Responsibility Assignment Matrix：責任分担マトリックス）」に対応するため、誤答候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「CMDDB」に対応するため、誤答候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「RBS（Risk Breakdown Structure）」について、誤りの内容を説明できることが重要である。リスクをカテゴリ別に階層化する構造である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0098 5-4 プロジェクトマネジメント> 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：標準

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」のうち「ステークホルダ対応」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．重要な意思決定に必要な情報が届かない。
- イ．影響力と関心の程度に応じて、情報量や関与方法を調整することが重要である。
- ウ．関心・役割に対して過剰である。
- エ．ガバナンス上不適切である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「影響力が高くてに関心が低いので一切報告しない。」に対応するため、正答候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「全技術ログを毎日詳細に送り付ける。」に対応するため、正答候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「経営層の承認事項も現場だけで決める。」に対応するため、正答候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「重要な意思決定・リスク・成果を簡潔に定期報告し、必要なタイミングで意思決定へ関与してもらう。」を選ぶ根拠は次のとおりである。影響力と関心の程度に応じて、情報量や関与方法を調整することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0099 5-4 プロジェクトマネジメント > 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：応用

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「統合変更管理」について、候補「変更要求を正式に登録し、スコープ・スケジュール・コスト・品質・リスクなどへの影響を統合評価して承認後に計画やベースラインを更新する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．影響範囲を見落とす。
- イ．成果物間の不整合が生じる。
- ウ．複数の管理領域へ波及する変更は、個別担当が独断で修正するのではなく、統合変更管理で全体最適を図る必要がある。
- エ．品質・納期・コストの管理ができない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「画面担当だけで承認し他領域へは知らせない。」に対応するため、正答候補「変更要求を正式に登録し、スコープ・スケジュール・コスト・品質・リスクなどへの影響を統合評価して承認後に計画やベースラインを更新する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「変更は法令対応なので計画・予算・テストを一切更新しない。」に対応するため、正答候補「変更要求を正式に登録し、スコープ・スケジュール・コスト・品質・リスクなどへの影響を統合評価して承認後に計画やベースラインを更新する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「変更要求を正式に登録し、スコープ・スケジュール・コスト・品質・リスクなどへの影響を統合評価して承認後に計画やベースラインを更新する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「影響分析せず本番へ直接適用する。」に対応するため、正答候補「変更要求を正式に登録し、スコープ・スケジュール・コスト・品質・リスクなどへの影響を統合評価して承認後に計画やベースラインを更新する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。複数の管理領域へ波及する変更は、個別担当が独断で修正するのではなく、統合変更管理で全体最適を図る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0100 5-4 プロジェクトマネジメント > 統合・スコープ・ステークホルダ・資源 | 難易度：応用

「統合・スコープ・ステークホルダ・資源」の「資源競合」を復習している学習者が、候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．スケジュールは論理関係だけでなく資源制約も考慮して実行可能にする必要がある。
- イ．進捗管理を歪める。
- ウ．品質・生産性リスクを評価していない。
- エ．実行不能な計画である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「資源制約を踏まえて作業順序・担当・期間を再調整し、必要なら資源平準化や追加資源の確保を検討する。」に対応するため、誤答候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「資源競合を記録せず両作業を予定どおり完了扱いにする。」に対応するため、誤答候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「専門性を確認せず無関係な担当者へ即時置換する。」に対応するため、誤答候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「技術者一人を同時刻に二つの場所で100%稼働として計画する。」については、何が誤りを明確にした上で正しい概念へ戻す。実行不能な計画である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0101 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「クリティカルパス」を確認する誤答分析で、学習者が候補「担当者数が最も多い経路。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．人数では定義されない。
- イ．コストの大小では定義されない。
- ウ．クリティカルパス上の活動が遅れると、他の調整がない限りプロジェクト完了も遅れる。
- エ．品質指標ではない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「担当者数が最も多い経路。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「最もコストが高い活動だけを並べた経路。」に対応するため、誤答候補「担当者数が最も多い経路。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「プロジェクト完了時期を決める、原則として全余裕時間が最も小さい一連の活動経路。」に対応するため、誤答候補「担当者数が最も多い経路。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「品質不良が最も多い工程だけを示す経路。」に対応するため、誤答候補「担当者数が最も多い経路。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「担当者数が最も多い経路。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。人数では定義されない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0102 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「EVM基本」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．各指標の意味が異なる。
- イ．PVは基準日時点で予定していた作業の予算価値、EVは実際に完了した作業の予算価値、ACは実際に要したコストである。
- ウ．EVMの定義ではない。
- エ．今回問われている対象とは役割が異なる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「PVは実コスト、EVは残作業、ACは計画価値」に対応するため、正答候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「PVは品質コスト、EVは利益、ACは売上」に対応するため、正答候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「PV、EV、ACはいずれも同じ値を表す」に対応するため、正答候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「PVは計画価値、EVは出来高価値、ACは実コスト」を選ぶ根拠は次のとおりである。PVは基準日時点で予定していた作業の予算価値、EVは実際に完了した作業の予算価値、ACは実際に要したコストである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0103 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「スケジュール・コスト・EVM」の「ガントチャート」について、候補「ガントチャート」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．データ構造を表す。
- イ．オブジェクトの静的構造を表す。
- ウ．ガントチャートは活動期間や進捗を時間軸で視覚化する。
- エ．原因と結果の関係を整理する品質管理手法である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「ER図」に対応するため、正答候補「ガントチャート」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「クラス図」に対応するため、正答候補「ガントチャート」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「ガントチャート」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「特性要因図」に対応するため、正答候補「ガントチャート」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。ガントチャートは活動期間や進捗を時間軸で視覚化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0104 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」の「EVM差異」を復習している学習者が、候補「SV=-10万円、CV=-20万円」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．符号が逆である。
- イ． $SV=EV-PV=100-120=-20$ 万円、 $CV=EV-AC=100-110=-10$ 万円で、予定より遅れかつ予算超過傾向である。
- ウ．SVの計算が誤っている。
- エ．式の対応を取り違えている。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「SV=20万円、CV=10万円」に対応するため、誤答候補「SV=-10万円、CV=-20万円」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「SV=-20万円、CV=-10万円」に対応するため、誤答候補「SV=-10万円、CV=-20万円」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「SV=10万円、CV=-10万円」に対応するため、誤答候補「SV=-10万円、CV=-20万円」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「SV=-10万円、CV=-20万円」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「SV=-10万円、CV=-20万円」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。式の対応を取り違えている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0105 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「CPI/SPI」を確認する誤答分析で、学習者が候補「SPI=1.00、CPI=1.00」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．実績値からは一致しない。
- イ．比を逆にしている。
- ウ．分母を取り違えている。
- エ． $SPI=EV/PV=60/80=0.75$ 、 $CPI=EV/AC=60/75=0.80$ である。ともに1未満なので遅延・コスト効率悪化を示す。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「SPI=1.00、CPI=1.00」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「SPI=1.33、CPI=1.25」に対応するため、誤答候補「SPI=1.00、CPI=1.00」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「SPI=0.80、CPI=0.75」に対応するため、誤答候補「SPI=1.00、CPI=1.00」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「SPI=0.75、CPI=0.80」に対応するため、誤答候補「SPI=1.00、CPI=1.00」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「SPI=1.00、CPI=1.00」について、誤りの内容を説明できることが重要である。実績値からは一致しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0106 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「ファストトラッキング」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「ファストトラッキング」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．追加資源投入などで期間短縮を図る手法である。
- イ．ファストトラッキングは順次予定の活動を部分的に並行化して期間短縮を図るが、手戻りリスクが増える。
- ウ．資源制約に合わせて期間を調整する手法である。
- エ．統計分析の一種である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「クラッシング」に対応するため、正答候補「ファストトラッキング」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「ファストトラッキング」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「資源平準化」に対応するため、正答候補「ファストトラッキング」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「回帰分析」に対応するため、正答候補「ファストトラッキング」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「ファストトラッキング」を選ぶ根拠は次のとおりである。ファストトラッキングは順次予定の活動を部分的に並行化して期間短縮を図るが、手戻りリスクが増える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0107 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」の「クラッシング」について、候補「クラッシング」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．活動の並行化が中心である。
- イ．余裕時間の範囲内で資源利用を調整する。
- ウ．クラッシングは追加資源などによりスケジュール短縮を図り、費用対効果を評価する。
- エ．他組織・事例と比較する手法である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は別候補「ファストトラッキング」に対応するため、正答候補「クラッシング」の根拠にはならない。
- イ：この説明は別候補「資源円滑化」に対応するため、正答候補「クラッシング」の根拠にはならない。
- ウ：この説明は正答候補「クラッシング」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
- エ：この説明は別候補「ベンチマーキング」に対応するため、正答候補「クラッシング」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。クラッシングは追加資源などによりスケジュール短縮を図り、費用対効果を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0108 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」の「CCPMバッファ」を復習している学習者が、候補「進捗をコストだけで管理する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．CCPMの考え方ではない。
- イ．CCPMでは資源制約を考慮したクリティカルチェーンとプロジェクトバッファ・合流バッファで不確実性を管理する。
- ウ．余裕を集約して可視化する考え方と逆である。
- エ．バッファ管理の目的と異なる。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は別候補「全作業の見積りを必ずゼロ日にする。」に対応するため、誤答候補「進捗をコストだけで管理する。」の問題点を直接説明していない。
- イ：この説明は別候補「不確実性を集約して管理し、バッファ消費を用いてプロジェクト全体の遅延リスクを監視する。」に対応するため、誤答候補「進捗をコストだけで管理する。」の問題点を直接説明していない。
- ウ：この説明は別候補「各担当者が余裕を自由に隠して保持する。」に対応するため、誤答候補「進捗をコストだけで管理する。」の問題点を直接説明していない。
- エ：この説明は誤答候補「進捗をコストだけで管理する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「進捗をコストだけで管理する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。バッファ管理の目的と異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0109 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：応用

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「EAC予測」を確認する誤答分析で、学習者が候補「800万円」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．BAC×CPIとしており式が異なる。
- イ．現在超過分だけを単純加算している。
- ウ．CPI=EV/AC=400/500=0.8、EAC=BAC/CPI=1,000/0.8=1,250万円である。
- エ．CPIの適用が誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「800万円」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「1,100万円」に対応するため、誤答候補「800万円」の問題点を直接説明していない。

ウ：この説明は別候補「1,250万円」に対応するため、誤答候補「800万円」の問題点を直接説明していない。

エ：この説明は別候補「2,000万円」に対応するため、誤答候補「800万円」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「800万円」について、誤りの内容を説明できることが重要である。BAC×CPIとしており式が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0110 5-4 プロジェクトマネジメント>スケジュール・コスト・EVM | 難易度：応用

「スケジュール・コスト・EVM」のうち「スケジュール総合」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．別経路の余裕はAの遅延を直接吸収しない場合がある。
- イ．遅延の影響は単一作業の余裕だけでなくネットワーク全体の再計算で判断する必要がある。
- ウ．対策や経路変化を考慮すべきである。
- エ．実態を反映しない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「Bに余裕があるのでAの5日遅延は必ず全体へ影響しない。」に対応するため、正答候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」の根拠にはならない。

イ：この説明は正答候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

ウ：この説明は別候補「Aがクリティカルパス上なら必ず5日納期延期とし再計算しない。」に対応するため、正答候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」の根拠にはならない。

エ：この説明は別候補「進捗計画を更新せず当初計画だけ報告する。」に対応するため、正答候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「まずAの遅延がクリティカルパスを維持するか再計算し、後続関係・資源制約・他経路の余裕を含めて全体スケジュールを更新する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。遅延の影響は単一作業の余裕だけでなくネットワーク全体の再計算で判断する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0111 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「リスク登録簿」について、候補「特定したリスク、その原因、発生可能性、影響、優先度、対応方針、責任者など。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．構成管理情報でありリスク登録簿ではない。
- イ．リスク管理の主要項目ではない。
- ウ．リスク登録簿はリスクを継続的に追跡・更新するための基礎情報を保持する。
- エ．リスク管理情報ではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「全ソースコードの行番号。」に対応するため、正答候補「特定したリスク、その原因、発生可能性、影響、優先度、対応方針、責任者など。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「プロジェクトメンバの給与明細だけ。」に対応するため、正答候補「特定したリスク、その原因、発生可能性、影響、優先度、対応方針、責任者など。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「特定したリスク、その原因、発生可能性、影響、優先度、対応方針、責任者など。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「完成後の画面キャプチャだけ。」に対応するため、正答候補「特定したリスク、その原因、発生可能性、影響、優先度、対応方針、責任者など。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。リスク登録簿はリスクを継続的に追跡・更新するための基礎情報を保持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0112 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「品質コスト」を復習している学習者が、候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．品質コストは不良防止や検査のコストだけでなく、不良によって発生する手戻り・保証・信用低下なども含めて考える。
- イ．予防・評価にも費用がかかる。
- ウ．定義が異なる。
- エ．品質コストの一部に過ぎない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「予防・評価に要する費用と、内部失敗・外部失敗による費用を含めて品質に関するコストを捉える。」に対応するため、誤答候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「品質が高ければ必ず品質コストはゼロになる。」に対応するため、誤答候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「売上高だけを品質コストと呼ぶ。」に対応するため、誤答候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「テスト費用だけを品質コストと呼ぶ。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。品質コストの一部に過ぎない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0113 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」のうち「SOW」を確認する誤答分析で、学習者が候補「全社の人事評価規程。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．調達SOWではない。
- イ．監査基準の内容である。
- ウ．SOWは外部へ調達する作業・成果物の範囲を明確にし、見積り・契約・受入れの基礎となる。
- エ．ネットワーク設定情報である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「全社の人事評価規程。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「監査人の独立性だけを定める文書。」に対応するため、誤答候補「全社の人事評価規程。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「供給者へ依頼する作業範囲、成果物、条件などを明確にした調達作業範囲記述書。」に対応するため、誤答候補「全社の人事評価規程。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「DNSのゾーン情報。」に対応するため、誤答候補「全社の人事評価規程。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「全社の人事評価規程。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。調達SOWではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0114 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」のうち「リスク対応」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「リスク低減」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスク原因となる活動自体をやめる対応である。
- イ．リスクの発生可能性や影響を小さくする対策は低減に該当する。
- ウ．保険・契約などで影響負担を第三者へ移す対応である。
- エ．追加対策を行わず受け入れる対応である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「リスク回避」に対応するため、正答候補「リスク低減」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「リスク低減」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「リスク移転」に対応するため、正答候補「リスク低減」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「リスク受容」に対応するため、正答候補「リスク低減」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「リスク低減」を選ぶ根拠は次のとおりである。リスクの発生可能性や影響を小さくする対策は低減に該当する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0115 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「品質保証と品質管理」について、候補「品質保証はプロセスや仕組みが適切かを確認・改善し、品質管理は成果物の測定・検査などで品質要求への適合を確認する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．今回問われている対象とは役割が異なる。
- イ．目的・焦点に違いがある。
- ウ．品質保証はプロセス指向、品質管理は成果物・測定指向という整理が基本である。
- エ．測定・検査は代表的な活動である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「品質保証は完成品検査だけ、品質管理は経営戦略だけを扱う。」に対応するため、正答候補「品質保証はプロセスや仕組みが適切かを確認・改善し、品質管理は成果物の測定・検査などで品質要求への適合を確認する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「両者は必ず完全に同じ活動で区別できない。」に対応するため、正答候補「品質保証はプロセスや仕組みが適切かを確認・改善し、品質管理は成果物の測定・検査などで品質要求への適合を確認する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「品質保証はプロセスや仕組みが適切かを確認・改善し、品質管理は成果物の測定・検査などで品質要求への適合を確認する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「品質管理では測定を行ってはいけない。」に対応するため、正答候補「品質保証はプロセスや仕組みが適切かを確認・改善し、品質管理は成果物の測定・検査などで品質要求への適合を確認する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。品質保証はプロセス指向、品質管理は成果物・測定指向という整理が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0116 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「契約タイプ」を復習している学習者が、候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．実際の費用を基礎に支払うため、買い手の総額は変動しやすい。
- イ．固定価格契約は明確な作業範囲に対して価格を固定するため、買い手側のコスト予測を行いやすい。
- ウ．仕様変更時の調整が重要になる。
- エ．一般的な契約類型の説明ではない。
- エ．調達統制上不適切である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「実費償還契約」に対応するため、誤答候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「固定価格契約」に対応するため、誤答候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「全リスクを必ず発注者が無条件負担する契約」に対応するため、誤答候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「口頭合意だけで契約書を作らない方式」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。調達統制上不適切である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0117 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」のうち「コミュニケーションチャネル」を確認する誤答分析で、学習者が候補「56」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．順序を区別して二重計上している。
- イ．人数そのものを答えている。
- ウ．計算式と一致しない。
- エ．チャネル数は $n(n-1)/2$ なので、 $8 \times 7/2=28$ である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「56」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「8」に対応するため、誤答候補「56」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「16」に対応するため、誤答候補「56」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「28」に対応するため、誤答候補「56」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「56」について、誤りの内容を説明できることが重要である。順序を区別して二重計上している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0118 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」のうち「供給者選定」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．客観的評価がない。
- イ．供給者選定は価格だけでなく、プロジェクト目標に影響する複数の評価要素を透明な基準で比較することが重要である。
- ウ．公平性・透明性を損なう。
- エ．総合的な調達リスクを無視している。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「最初に提案した会社を無条件で選ぶ。」に対応するため、正答候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「評価基準を選定後に都合よく変更する。」に対応するため、正答候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「品質やリスクを一切見ず最安値だけで必ず決める。」に対応するため、正答候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「評価基準と重みを事前に定め、複数観点で提案を評価して選定する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。供給者選定は価格だけでなく、プロジェクト目標に影響する複数の評価要素を透明な基準で比較することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0119 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：応用

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「リスク機会」について、候補「実現可能性と効果を評価し、試行導入や適切な資源投入によって機会を活用する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．シラバス上も脅威と機会を管理対象としている。
- イ．新たなリスクを生む可能性がある。
- ウ．プロジェクトリスクには脅威だけでなく好機も含まれ、価値を高めるための対応を計画できる。
- エ．機会管理にならない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「機会はリスクではないので必ず無視する。」に対応するため、正答候補「実現可能性と効果を評価し、試行導入や適切な資源投入によって機会を活用する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「効果を評価せず全工程へ即時強制導入する。」に対応するため、正答候補「実現可能性と効果を評価し、試行導入や適切な資源投入によって機会を活用する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「実現可能性と効果を評価し、試行導入や適切な資源投入によって機会を活用する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「成功可能性を隠して意思決定者へ知らせない。」に対応するため、正答候補「実現可能性と効果を評価し、試行導入や適切な資源投入によって機会を活用する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。プロジェクトリスクには脅威だけでなく好機も含まれ、価値を高めるための対応を計画できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0120 5-4 プロジェクトマネジメント> リスク・品質・調達・コミュニケーション | 難易度：応用

「リスク・品質・調達・コミュニケーション」の「コミュニケーション危機対応」を復習している学習者が、候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．情報不整合と混乱を招く。
- イ．重大事象では情報の正確性・一貫性・適時性が重要で、ステークホルダごとに必要な粒度で統制する。
- ウ．影響が大きい場合、適切な状況共有が必要である。
- エ．機密情報や不要情報を含む可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「各担当が推測を含め自由に発信する。」に対応するため、誤答候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「事実確認と更新責任者を明確にし、対象者ごとの必要情報・頻度・経路を定めた一貫したコミュニケーションへ統合する。」に対応するため、誤答候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「問題が解決するまで顧客へ一切連絡しない。」に対応するため、誤答候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「技術ログ全文をそのまま全顧客へ送る。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。機密情報や不要情報を含む可能性がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0121

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：基礎

「サービスレベル・可用性・継続性」のうち「SLA」を確認する誤答分析で、学習者が候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．開発規約でありSLAではない。
- イ．鍵管理手順である。
- ウ．SLAはサービス内容やパフォーマンス目標を明確にし、測定・レビューの基準として利用する。
- エ．プロジェクトスコープ管理の成果物である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は誤答候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「暗号鍵の生成手順だけを定める文書。」に対応するため、誤答候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「提供するサービスと、合意したサービスレベル目標などを顧客とサービス提供者の間で明確にした合意文書。」に対応するため、誤答候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「プロジェクトのWBSだけを記述する文書。」に対応するため、誤答候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「ソースコードの命名規約だけを定める文書。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。開発規約でありSLAではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0122

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：基礎

「サービスレベル・可用性・継続性」のうち「サービス可用性」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．可用性を表す指標ではない。
- イ．可用性は、利用者が必要とする時間にサービスを利用可能にできる能力・実績を評価する。
- ウ．可用性とは無関係である。
- エ．サービス可用性の定義ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は別候補「システムのソースコード行数。」に対応するため、正答候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「利用者一人当たりの教育時間。」に対応するため、正答候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「開発者の残業時間。」に対応するため、正答候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「合意したサービス時間のうち、サービスを利用可能な状態で提供できた程度。」を選ぶ根拠は次のとおりである。可用性は、利用者が必要とする時間にサービスを利用可能にできる能力・実績を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0123

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：標準

「サービスレベル・可用性・継続性」の「SLI/SLO」について、候補「実績を測る指標がSLI、達成すべき目標値がSLO」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．役割が逆である。
- イ．RTOは復旧時間目標である。
- ウ．SLIはサービスレベルを測る指標、SLOはその指標に対して設定する目標であり、SLAにはこれらを用いた合意が含まれ得る。
- エ．構成情報を管理する仕組みである。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は別候補「実績指標がSLO、目標値がSLI」に対応するため、正答候補「実績を測る指標がSLI、達成すべき目標値がSLO」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「両方ともRTO」に対応するため、正答候補「実績を測る指標がSLI、達成すべき目標値がSLO」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「実績を測る指標がSLI、達成すべき目標値がSLO」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「両方ともCMDB」に対応するため、正答候補「実績を測る指標がSLI、達成すべき目標値がSLO」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。SLIはサービスレベルを測る指標、SLOはその指標に対して設定する目標であり、SLAにはこれらを用いた合意が含まれ得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0124

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：標準

「サービスレベル・可用性・継続性」の「可用性計算」を復習している学習者が、候補「95.0%」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．3時間36分は3.6時間なので、 $(720-3.6)/720=0.995$ 、すなわち99.5%である。
- イ．計算結果と一致しない。
- ウ．停止時間を0.36時間として扱った場合に近い誤りである。
- エ．停止時間の割合を過大に計算している。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は別候補「99.5%」に対応するため、誤答候補「95.0%」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「99.0%」に対応するため、誤答候補「95.0%」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「99.95%」に対応するため、誤答候補「95.0%」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「95.0%」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「95.0%」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。停止時間の割合を過大に計算している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0125

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：標準

「サービスレベル・可用性・継続性」のうち「MTBF/MTTR」を確認する誤答分析で、学習者が候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．MTTRとMTBFは別の指標である。
- イ．MTTRは障害頻度を直接表さない。
- ウ．MTTRは平均修復時間であり、短いほど障害後の停止時間を抑えやすい。
- エ．可用性評価に関係する代表指標である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は誤答候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「Aの方が必ず障害発生回数が多くなる。」に対応するため、誤答候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「他条件が同じなら、Aの方が障害からの復旧が速く、可用性が高まりやすい。」に対応するため、誤答候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「MTTRはサービスレベルと無関係である。」に対応するため、誤答候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「Aの方が必ずMTBFも短くなる。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。MTTRとMTBFは別の指標である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0126

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：標準

「サービスレベル・可用性・継続性」のうち「RTO/RPO」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．RTO・RPOの意味ではない。
- イ．RTOは復旧時間の目標、RPOは復旧可能なデータ時点の目標である。
- ウ．RTOとRPOが逆である。
- エ．継続性指標である。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は別候補「4時間ごとに30分停止する計画である。」に対応するため、正答候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「30分以内にサービスを復旧し、4時間分のデータ損失を許容する。」に対応するため、正答候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「どちらもCPU使用率の目標である。」に対応するため、正答候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「重大障害時に4時間以内のサービス復旧を目標とし、原則として障害発生前30分以内の時点までデータを復旧できるようにする。」を選ぶ根拠は次のとおりである。RTOは復旧時間の目標、RPOは復旧可能なデータ時点の目標である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0127

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：応用

「サービスレベル・可用性・継続性」の「待機系選択」について、候補「常時稼働・同期したホットスタンバイなど、短いRTOを実現できる方式を検討する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．復旧に長時間を要しやすい。
- イ．データ破損等への備えが不足する。
- ウ．短いRTOには即時切替可能な待機系が適する一方、コストや複雑性が高くなるため事業要件と合わせて選ぶ。
- エ．事業継続要件を満たさない可能性がある。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は別候補「電源も設備も準備しない方式だけを選ぶ。」に対応するため、正答候補「常時稼働・同期したホットスタンバイなど、短いRTOを実現できる方式を検討する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「バックアップを一切取らず待機系だけに依存する。」に対応するため、正答候補「常時稼働・同期したホットスタンバイなど、短いRTOを実現できる方式を検討する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「常時稼働・同期したホットスタンバイなど、短いRTOを実現できる方式を検討する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「RTOを確認せず最も安い方式を必ず採用する。」に対応するため、正答候補「常時稼働・同期したホットスタンバイなど、短いRTOを実現できる方式を検討する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。短いRTOには即時切替可能な待機系が適する一方、コストや複雑性が高くなるため事業要件と合わせて選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0128

5-5 サービス管理・システム監査 > サービスレベル・可用性・継続性 | 難易度：応用

「サービスレベル・可用性・継続性」の「継続計画試験」を復習している学習者が、候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．実効性を確認できない。
- イ．サービス継続計画は作成して終わりではなく、環境変化に応じて維持し、実効性を試験する必要がある。
- ウ．事前準備の目的に反する。
- エ．現状と不整合になる。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は別候補「計画書が存在するので訓練は不要である。」に対応するため、誤答候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「現在の環境・役割・依存関係を反映して計画を見直し、定期的かつ重大変更後に訓練・試験して改善する。」に対応するため、誤答候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「障害が実際に起きるまで計画を見直さない。」に対応するため、誤答候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「旧環境の連絡先や復旧手順をそのまま使う。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。現状と不整合になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0129 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：基礎

「インシデント・問題・変更・構成管理」のうち「インシデント管理」を確認する誤答分析で、学習者が候補「SLAの価格だけを決める。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．サービスレベル管理の一部である。
- イ．根本原因分析は問題管理の主要目的である。
- ウ．構成管理の役割である。
- エ．インシデント管理では記録、分類、優先順位付け、エスカレーション、解決、終了などを管理する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「SLAの価格だけを決める。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「全ての根本原因を必ずその場で完全解明する。」に対応するため、誤答候補「SLAの価格だけを決める。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「構成品目の全版を設計する。」に対応するため、誤答候補「SLAの価格だけを決める。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「サービスの計画外中断や品質低下に対し、優先度に応じてできるだけ速く正常なサービスを回復する。」に対応するため、誤答候補「SLAの価格だけを決める。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「SLAの価格だけを決める。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。サービスレベル管理の一部である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0130 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：基礎

「インシデント・問題・変更・構成管理」のうち「問題管理」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．サービス要求やインシデントの受付業務と異なる。
- イ．問題管理は個々のインシデントの迅速復旧だけでなく、根本原因や既知の誤りを管理する。
- ウ．プロジェクトコスト管理である。
- エ．システム監査の論点である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「利用者からの全問い合わせを即座に終了する。」に対応するため、正答候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「プロジェクト予算を作成する。」に対応するため、正答候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「監査人の独立性を評価する。」に対応するため、正答候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「インシデントの傾向や根本原因を分析し、発生・再発を防止または影響を低減する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。問題管理は個々のインシデントの迅速復旧だけでなく、根本原因や既知の誤りを管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0131 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・構成管理」の「優先順位」について、候補「影響度と緊急度」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．インシデント優先度の基本要因ではない。
- イ．一般的な優先度基準ではない。
- ウ．シラバスではインシデントを影響と緊急度を考慮して優先順位付けする。
- エ．影響・緊急性を反映しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「担当者の勤続年数と年齢」に対応するため、正答候補「影響度と緊急度」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「ソースコード行数とCPUクロック」に対応するため、正答候補「影響度と緊急度」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「影響度と緊急度」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「顧客名の五十音順と受付番号」に対応するため、正答候補「影響度と緊急度」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。シラバスではインシデントを影響と緊急度を考慮して優先順位付けする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0132 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・構成管理」の「既知の誤り」を復習している学習者が、候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．知識共有と再発対応に使えなくなる。
- イ．問題管理では根本原因が分かって未解決の問題を既知の誤りとして管理し、回避策や解決策を活用する。
- ウ．同じ調査を繰り返しやすい。
- エ．変更管理を逸脱する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「原因が分かった時点で記録を削除する。」に対応するため、誤答候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「既知の誤りとして記録し、回避策を共有しつつ恒久対策に必要な変更を変更管理へ連携する。」に対応するため、誤答候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「インシデント記録だけを毎回新規作成し根本原因を共有しない。」に対応するため、誤答候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「恒久対策を無承認で直接本番へ変更する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。変更管理を逸脱する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0133 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・構成管理」のうち「変更管理」を確認する誤答分析で、学習者が候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．変更の追跡性を失う。
- イ．必要な価値提供ができない。
- ウ．変更管理は変更に伴うリスクを統制し、サービスへの悪影響を減らすためのプロセスである。
- エ．サービス影響を拡大する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「全変更に影響に関係なく永久に拒否する。」に対応するため、誤答候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「変更要求を記録し、リスク・影響・資源・日程を評価し、承認後に実施して結果をレビューする。」に対応するため、誤答候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「失敗時の切戻しを考えない。」に対応するため、誤答候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「小さな変更なら記録せず誰でも実施できるようにする。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。変更の追跡性を失う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0134 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・構成管理」のうち「構成管理」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．識別管理と逆である。
- イ．構成情報が正確であれば、どのCIの変更・障害がどのサービスへ影響するか追跡しやすい。
- ウ．必要に応じ他活動で利用可能にする。
- エ．構成情報の正確性が重要である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「全CIを同じバージョン名にして区別しないため。」に対応するため、正答候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「構成情報を他の管理活動から隠すため。」に対応するため、正答候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「実環境と異なる情報を意図的に登録するため。」に対応するため、正答候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「サービスを構成する要素と依存関係を把握し、変更影響分析やインシデント・問題対応に活用するため。」を選ぶ根拠は次のとおりである。構成情報が正確であれば、どのCIの変更・障害がどのサービスへ影響するか追跡しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0135 5-5 サービス管理・システム監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：応用

「インシデント・問題・変更・構成管理」の「統合運用」について、候補「インシデント管理で迅速復旧し、問題管理で根本原因と既知の誤りを管理し、変更管理で恒久修正を統制し、構成情報で影響対象を確認する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．再発防止につながらない。
- イ．影響分析が不足する。
- ウ．インシデント・問題・変更・構成管理は目的が異なるが、相互に情報を連携することで安定運用につながる。
- エ．各管理活動の目的を混同している。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「毎週のインシデントだけ閉じ、根本原因や変更は一切管理しない。」に対応するため、正答候補「インシデント管理で迅速復旧し、問題管理で根本原因と既知の誤りを管理し、変更管理で恒久修正を統制し、構成情報で影響対象を確認する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「恒久修正を構成情報確認なしで全サーバへ一斉適用する。」に対応するため、正答候補「インシデント管理で迅速復旧し、問題管理で根本原因と既知の誤りを管理し、変更管理で恒久修正を統制し、構成情報で影響対象を確認する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「インシデント管理で迅速復旧し、問題管理で根本原因と既知の誤りを管理し、変更管理で恒久修正を統制し、構成情報で影響対象を確認する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。

エ：この説明は別候補「問題管理だけでサービス復旧・変更承認・構成監査を全て代替する。」に対応するため、正答候補「インシデント管理で迅速復旧し、問題管理で根本原因と既知の誤りを管理し、変更管理で恒久修正を統制し、構成情報で影響対象を確認する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。インシデント・問題・変更・構成管理は目的が異なるが、相互に情報を連携することで安定運用につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0136 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：基礎

「システム監査・内部統制・監査手続」の「システム監査目的」を復習している学習者が、候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．システム監査は単なる不具合探しではなく、ガバナンス・マネジメント・コントロールをリスクの観点から評価し、保証・助言を行う。
- イ．監査の目的ではない。
- ウ．客観性を損なう。
- エ．監査と業務執行は分離する必要がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「情報システムに係るリスクへの対応状況を独立かつ客観的に検証・評価し、保証や助言を通じて組織の目標達成や説明責任に寄与する。」に対応するため、誤答候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「情報システムを停止させること自体を目的とする。」に対応するため、誤答候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「監査対象部門の希望どおりに結論を変更する。」に対応するため、誤答候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「監査人が被監査部門の業務を代行して成果責任を負う。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。監査と業務執行は分離する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0137 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：基礎

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「監査の流れ」を確認する誤答分析で、学習者が候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．監査の前提となる証拠・結論がない。
- イ．基本的な順序が逆である。
- ウ．シラバスでは、リスクに基づく計画、監査証拠の入手・評価、結論・報告、改善提案のフォローアップという流れを扱う。
- エ．リスクや目的に応じた計画が必要である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「監査報告->計画->証拠収集の順だけで行う。」に対応するため、誤答候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「監査計画の策定->監査の実施->監査報告とフォローアップ」に対応するため、誤答候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「計画せず毎回同じ質問だけをする。」に対応するため、誤答候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「フォローアップだけを行い監査実施は不要である。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。監査の前提となる証拠・結論がない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0138 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：基礎

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「内部統制」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．内部統制の整備・運用責任は組織側にある。
- イ．内部統制は組織目標達成を支える統制の仕組みで、統制環境、リスク評価と対応、統制活動、情報と伝達、モニタリング、ITへの対応などを含む。
- ウ．職務分掌と相反する。
- エ．ITは内部統制の重要な構成要素である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「外部監査人だけが構築する仕組み。」に対応するため、正答候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「全業務を一人に集中させる仕組み。」に対応するため、正答候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「情報システムとは一切関係しない仕組み。」に対応するため、正答候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセス、職務分掌、ルール、チェック体制などを組織自らが構築・運用する仕組み。」を選ぶ根拠は次のとおりである。内部統制は組織目標達成を支える統制の仕組みで、統制環境、リスク評価と対応、統制活動、情報と伝達、モニタリング、ITへの対応などを含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0139 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：基礎

「システム監査・内部統制・監査手続」の「CAAT」について、候補「監査ソフトウェアやデータ分析など、コンピュータを利用して監査手続を効率的・効果的に実施する技法。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．CAATと逆である。
- イ．監査技法ではない。
- ウ．CAATにはデータサンプリング、データ分析、テストデータ法、監査モジュール法などが含まれる。

エ．システム監査の技法に限定されない作業である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「監査人がコンピュータを一切使わないこと。」に対応するため、正答候補「監査ソフトウェアやデータ分析など、コンピュータを利用して監査手続を効率的・効果的に実施する技法。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「被監査部門へ監査結果を書かせること。」に対応するため、正答候補「監査ソフトウェアやデータ分析など、コンピュータを利用して監査手続を効率的・効果的に実施する技法。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「監査ソフトウェアやデータ分析など、コンピュータを利用して監査手続を効率的・効果的に実施する技法。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「プロジェクトのWBSを自動生成することだけ。」に対応するため、正答候補「監査ソフトウェアやデータ分析など、コンピュータを利用して監査手続を効率的・効果的に実施する技法。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。CAATにはデータサンプリング、データ分析、テストデータ法、監査モジュール法などが含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0140 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：基礎

「システム監査・内部統制・監査手続」の「監査調書」を復習している学習者が、候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．問われている関係や方向を逆に捉えた内容である。
- イ．監査調書は、何を調べ、どの証拠からどの結論へ至ったかを追跡できるようにする重要な記録である。
- ウ．監査調書の目的ではない。
- エ．客観的な監査過程・根拠を残す必要がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「監査証拠を全て削除するため。」に対応するため、誤答候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「収集・検証した情報と監査結論に至る過程を記録し、監査報告の根拠や品質確認に利用する。」に対応するため、誤答候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「被監査部門の業務マニュアルを無断で置換するため。」に対応するため、誤答候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「監査人の個人的な感想だけを残すため。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。客観的な監査過程・根拠を残す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0141 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「独立性」を確認する誤答分析で、学習者が候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．客観性を失う。
- イ．自己レビューの脅威がある。
- ウ．内部監査でも独立性・客観性への配慮が必要である。
- エ．システム監査では、監査対象からの独立性と客観性の保持が重要である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「自分が設計したので必ず最も客観的に監査できる。」に対応するため、誤答候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「内部監査では独立性は一切不要である。」に対応するため、誤答候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「自己レビューによって独立性・客観性が損なわれるおそれがあるため、対象から独立した監査人の配置などを検討する。」に対応するため、誤答候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「設計責任者の希望どおりに監査結論を決める。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。客観性を失う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0142 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「リスクアプローチ」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．リスクを反映しない。
- イ．リスクアプローチでは、全領域を同じ深さで見のではなく、監査目的に対する重要リスクを基に範囲・手続を決める。
- ウ．重要性や複雑性を無視している。
- エ．リスクアプローチと逆である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「システム名の五十音順だけで監査時間を配分する。」に対応するため、正答候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「全システムを理由なく同じ1時間だけ監査する。」に対応するため、正答候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「高リスクシステムほど監査対象から除外する。」に対応するため、正答候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「事業影響、過去の障害・不正、変更量、法令要求などからリスクを評価し、高リスク領域へ監査資源を重点配分する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。リスクアプローチでは、全領域を同じ深さで見のではなく、監査目的に対する重要リスクを基に範囲・手続を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0143 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」の「監査証拠」について、候補「承認記録、棚卸結果、権限変更履歴など関連する証拠を追加で入手し、十分性と適切性を評価する。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．客観的裏付けが弱い。
- イ．証拠を総合評価する必要がある。
- ウ．監査結論は十分かつ適切な監査証拠に基づく必要があり、重要事項を口頭説明だけで結論付けるのは不十分になり得る。
- エ．量だけでなく適切性・関連性も重要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「担当者が自信を持っているので証拠は不要とする。」に対応するため、正答候補「承認記録、棚卸結果、権限変更履歴など関連する証拠を追加で入手し、十分性と適切性を評価する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「口頭説明と矛盾する記録があっても無視する。」に対応するため、正答候補「承認記録、棚卸結果、権限変更履歴など関連する証拠を追加で入手し、十分性と適切性を評価する。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「承認記録、棚卸結果、権限変更履歴など関連する証拠を追加で入手し、十分性と適切性を評価する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「監査証拠は多ければ関連性に関係なく良いとする。」に対応するため、正答候補「承認記録、棚卸結果、権限変更履歴など関連する証拠を追加で入手し、十分性と適切性を評価する。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。監査結論は十分かつ適切な監査証拠に基づく必要があり、重要事項を口頭説明だけで結論付けるのは不十分になり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0144 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」の「統計的サンプリング」を復習している学習者が、候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．選択バイアスがある。
- イ．サンプリングでは母集団、抽出方法、標本の代表性、結果の解釈を記録して結論へつなげる。
- ウ．母集団を歪める。
- エ．監査証拠がない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「正常そうなデータだけを意図的に選ぶ。」に対応するため、誤答候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「母集団と監査目的を明確にし、偏りを抑えた統計的サンプリングで標本を抽出して評価する。」に対応するため、誤答候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「異常データを抽出前に全て削除する。」に対応するため、誤答候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「一件も見ずに全件正常と推定する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。監査証拠がない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0145 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「ウォークスルー」を確認する誤答分析で、学習者が候補「ファストトラッキング」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．プロジェクト期間短縮の手法である。
- イ．追加資源による期間短縮の手法である。
- ウ．ウォークスルー法は実際の取引や処理を一連の流れに沿って追い、業務プロセスと統制の設計・実施状況を理解する。
- エ．OS・DBの並行制御に関する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「ファストトラッキング」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「クラッシング」に対応するため、誤答候補「ファストトラッキング」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「ウォークスルー法」に対応するため、誤答候補「ファストトラッキング」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「デッドロック検出」に対応するため、誤答候補「ファストトラッキング」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「ファストトラッキング」について、誤りの内容を説明できることが重要である。プロジェクト期間短縮の手法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0146 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「フォローアップ」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．監査と業務執行の独立性を損なう。
- イ．監査人は改善の実行主体ではなく、改善計画・実施状況をフォローアップして報告する。
- ウ．管理者の責任を代替することになる。
- エ．フォローアップの目的に反する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「監査人自らが被監査部門の改善プロジェクトを管理する。」に対応するため、正答候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「改善案の実施を監査人が命令し、実装責任まで負う。」に対応するため、正答候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「報告書提出後は改善状況を一切確認しない。」に対応するため、正答候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「監査対象部門の改善状況をモニタリングし、必要な措置が適切かつ適時に実施されているか確認する。」を選ぶ根拠は次のとおりである。監査人は改善の実行主体ではなく、改善計画・実施状況をフォローアップして報告する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0147 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：標準

「システム監査・内部統制・監査手続」の「IT全般統制」について、候補「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理など、複数の業務システムに共通するIT基盤・プロセスの統制。」を他の候補と区別する決め手として最も適切な説明はどれか。

- ア．特定業務処理に組み込まれたIT業務処理統制の例である。
- イ．IT統制ではない。
- ウ．IT全般統制は各アプリケーション統制が有効に機能する基盤を支える。
- エ．IT全般統制ではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は別候補「販売システムで受注金額×税率を自動計算する入力・処理チェックだけ。」に対応するため、正答候補「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理など、複数の業務システムに共通するIT基盤・プロセスの統制。」の根拠にはならない。
イ：この説明は別候補「顧客への広告文面を考える。」に対応するため、正答候補「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理など、複数の業務システムに共通するIT基盤・プロセスの統制。」の根拠にはならない。
ウ：この説明は正答候補「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理など、複数の業務システムに共通するIT基盤・プロセスの統制。」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
エ：この説明は別候補「製品の包装デザインだけを承認する。」に対応するため、正答候補「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理など、複数の業務システムに共通するIT基盤・プロセスの統制。」の根拠にはならない。

総合解説：近接概念との区別では、正答候補に固有の根拠を押さえる。IT全般統制は各アプリケーション統制が有効に機能する基盤を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0148 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：応用

「システム監査・内部統制・監査手続」の「アクセス監査」を復習している学習者が、候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」を正答だと考えている。この誤解を直接修正するフィードバックとして最も適切な説明はどれか。

- ア．アクセス管理監査では、権限付与・変更・削除の承認と、実際のアカウント状態・ログを複数証拠で照合することが有効である。
- イ．削除漏れを特定できない。
- ウ．監査人が業務執行を行うのは不適切である。
- エ．監査証拠が不十分である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は別候補「人事の退職者一覧とID一覧を突合し、管理者権限の承認記録・棚卸記録・アクセスログを確認して統制の設計と運用を評価する。」に対応するため、誤答候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」の問題点を直接説明していない。
イ：この説明は別候補「退職者一覧を見ず、現存ID数だけ数える。」に対応するため、誤答候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「監査人が無断で全管理者IDを削除する。」に対応するため、誤答候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は誤答候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。

総合解説：誤答候補「システム管理者へ『問題ないか』と一度聞くだけで終了する。」については、何が誤りかを明確にした上で正しい概念へ戻す。監査証拠が不十分である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0149 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：応用

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「勤務管理監査」を確認する誤答分析で、学習者が候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」を選んだ。この選択を見直す理由として最も適切な説明はどれか。

- ア．IT利用時も内部統制は必要である。
- イ．自己承認は相互牽制を失う。
- ウ．重要な申請と承認を分離することは代表的な統制活動であり、同一人物への権限集中は統制リスクとなる。
- エ．統制をさらに弱める。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は誤答候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」の問題点に対応しており、今回の誤解を直接修正できる。
イ：この説明は別候補「本人が詳しいので統制上必ず最善である。」に対応するため、誤答候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」の問題点を直接説明していない。
ウ：この説明は別候補「申請と承認が同一人物で完結するため職務分掌・相互牽制が弱く、不正・誤りを防止又は発見しにくい。」に対応するため、誤答候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」の問題点を直接説明していない。
エ：この説明は別候補「勤務時刻の修正機能自体を全従業員へ管理者権限で開放する。」に対応するため、誤答候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」の問題点を直接説明していない。

総合解説：誤答候補「システム化されていれば職務分掌は不要である。」について、誤りの内容を説明できることが重要である。IT利用時も内部統制は必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

Q0150 5-5 サービス管理・システム監査 > システム監査・内部統制・監査手続 | 難易度：応用

「システム監査・内部統制・監査手続」のうち「ガバナンス・マネジメント・コントロール」を、正答の根拠まで理解できているか確認する。候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」を妥当と判断する根拠として最も適切な説明はどれか。

- ア．三つの役割が入れ替わっている。
- イ．ガバナンスは方向付け・監督、マネジメントは方針を実現する管理活動、コントロールは具体的な統制の設計・運用という観点で整理できる。
- ウ．方向付け・管理・統制の整理と一致しない。
- エ．システム監査基準では異なる視点として評価する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は別候補「(1)コントロール、(2)ガバナンス、(3)マネジメント」に対応するため、正答候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」の根拠にはならない。
イ：この説明は正答候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」の根拠に対応しており、今回の問いに合致する。
ウ：この説明は別候補「(1)マネジメント、(2)コントロール、(3)ガバナンス」に対応するため、正答候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」の根拠にはならない。
エ：この説明は別候補「三つは完全に同義なので区別しない」に対応するため、正答候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」の根拠にはならない。

総合解説：正答候補「(1)ガバナンス、(2)マネジメント、(3)コントロール」を選ぶ根拠は次のとおりである。ガバナンスは方向付け・監督、マネジメントは方針を実現する管理活動、コントロールは具体的な統制の設計・運用という観点で整理できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04